大正[illegible]年十月一日（第三種郵便物認可）
大正十一年四月一日發行

女性同盟



15

四月號

女性同盟

第[redacted]四月號目次

最近の雜感……與謝野晶子……（一）
四國協約と世界平和……稻垣守克……（七）
國際婦人會議の提唱……山田美都子……（一六）
□詩三章……岡本かの子……（二一）
寂流の音……相本まさを……（二三）

私の見た亞米利加の社會の事業……小橋三四子…(三二)
□新刊紹介……(三三)
□治警婦人同盟……(三五)
□彼女……深尾須磨子…(三六)
□治警第五條修正の通過を期し乍ら……(三九)
□協會會報……(四〇)
マルタ……ユルザオル・ゼシユヨ…(四二)

女性同盟

第四月號目次

最近の雜感……與謝野晶子……（一）
四國協約と世界平和……稲垣守克……（七）
國際婦人會議の提唱……山田美都子……（一六）
□詩三章……岡本かの子……（二二）
寂流の音……桐本まさを……（三三）

私の見た亞米利加の社會の事業……小橋三四子……(三二)
□新刊紹介……(三二)
□治警婦人同盟……(三五)
□彼女……深尾須磨子……(三一)
□治警第五條修正の通過を期し乍ら……(三九)
□協會會報……(四〇)
マルタ……ユルザオル●ゼシユヨ……(四二)

最近の雜感

與謝野晶子

文化生活は虛僞を排して眞實を求めますけれども、何事をも不作法にムキ出さうとするものではありません。內心の複雜微妙な欲求の表現として明暗があり、遠近があり、輕重があり、濃淡があるのは當然でせう。それでこそ人生が單調を免れ、無限に趣味の多い、言ふに言はれぬ魅力を持つたものとなります。明るい光の前ではつきりと見るものも宜しいが、或物は却つて薄暗い所で見たり、薄絹でも隔てて仄かに眺めたりする方が望ましい場合もあります。文化生活はさう云ふ複雜なニユアンスに富んだ生活を意味するのです。現代の人間はさう云ふパアスペクチイヴの豊かな生活を求めて居るのです。『奥ゆかしい』のが文化生活の內容でなければなりません。

　この意味から、近頃の我國で性欲に關係する輕佻な研究や議論が盛に行はれて居るのを、私は好い事と考へることが出來ません。香に香函があり佛像に厨子があり、鏡に袋があるやうに、或物に對しては特に其れを露骨にしないで置く方が生活の價値を深める場合があります。容器に納めたり、美しい箱に入れたり、絹で包んだりする事は、決して其れを不可解にする譯でも無ければ、其れを神祕にする譯でもありません。さうする事が其物を正しく取扱ふ方法であるのです。『自然に歸れ』と云ふ事を曲解して、一切の秩序を破り、露骨と不作法とを以て眞實であると心得る人々は、氣の毒ながら文化生活に逆行する人々であると思ひます。『自然に歸れ』とは要するに『有るべきやうに有れ』と云ふ事です。決して『有るがまゝにあれ』と云ふことではありません。言ひ換れば『正しい秩序に從へ』と云ふ事です。

　一體に我國の敎育は餘計に物を與へたがります

自發創造の敎育と云ふことが盛に論せられる割にまた一方では其れを裏切る敎育論が多いのです。性欲の生活は何人にも共通する强烈な本能に根ざして居るのですから、外から仰山に注意を促さなくても好いものです。個人の本然の自發的覺醒に任せて置いて、其時に自ら模索し探討して領會さすべき性質のものです。唯ださう云ふ意味の自己敎育の必要が起つた場合の參考として、性欲敎育に關係する學者的研究が備へられて居るのは好い事ですが、最近の我國のやうに、少年や青年の好奇心に附け込むやうな、しかも挑發的の筆致を以て書かれた性欲敎育の述作が、れいれいと衆目の前に續出する現象は不愉快千萬に感じられます。私は其等の著者に、果して文化生活の意義が解つて居るか否かを問ひたいのです。私の想像する所では、其等の著者は、その述作が天下の子女に對してどれだけ不良な反對暗示を與へるかに就てすらも、嚴正な人間的反省を取ることの出來ない人達では無いかと云ふ事を恐れずに居られません。

私は、極めて眞實な專門學者の見地からなされた研究の業績と云つても、其れを社會の廣汎な範圍を對象として公開する時には、必ず或種の遠慮があつて然るべきであると思つて居ます。自家の專門にばかり偏して他を顧慮しない事は、社會連帶の精神を閑却した點に於て、到底現代の學者的良心を持つた人の態度とは認め難いと思ひます。況やこの一兩年の性欲敎育の著作をなす人々は、學者的良心は勿論、普通人としての羞恥的情操をすら備へて居るかどうかを疑はれる賣文者流の臭味の多い人達です。私は我國の敎育界が其等の人達の、見さかひの無い、不作法な著作に由つて、露骨な性欲敎育が鼓吹されて居るのを放任して置くのは宜しく無いと思ひます。

と云つて、私は性欲敎育を否定する者で無く、そのやうにムキ出しにしない方法に由つて、正當に性欲敎育を試みる事には以前より賛成して居る一人です。其れはもつと細心に考察すべき大きな問題であつて、はしたない誨淫の戯作と混じ易いやうな輕浮な著作の内容となつて、坊間に流布さるべき性質のもので無いと思ひます。

○

華盛頓會議が私の期待以上に立派な成績を見せやうとして居るのは嬉しい事です。軍備の全廢を理想として居る今日、我國の海軍が大讓歩をして縮小し、陸軍もまた山東や西伯利亞から撤退する事になるのは、日本人自ら其れだけ平和主義の實踐者になつた譯です。善事は行ひ難いものですがこれだけ大きな善事を國民の名に由つて行ふ時節の來たことを慶賀せねばなりません。昨年の議會で八八艦隊と云ふやうな馬鹿らしい計畫を海軍當局者が固執して動かなかつたのを思ふと、何と云ふ激しい變り方でせう。

併し如何に善事でも、外國から強制された氣味合の下に之を行ふのは遺憾です。日本人は『義を見てせざるは勇無きなり』と云ふ樣な格言に勵まされ、『大義、親を滅す』と云ふやうな元氣のいゝ事を言ふ國民である以上、早く世界の大勢と文化的理想の方向とを透視して、すべての人間的善事に世界の先唱者として立ちたいものだと思ひます
外交が振はないと云ふことも、かう云ふ點に積極的で無いことを意味するやうで無ければなりません。それには國民が覺醒して、外交當局者の背後の勢力となる事が大切です。軍人階級の馬車馬のやうな狹い見識からの放恣な行動を制御する事も國民の持つてゐる平和思想の力でなければなりません。

軍備の縮小は忽ち其れに關係ある工場勞働の縮小となり、直接間接に多くの失職者を出だすでせうが、それは併し一時的現象で、結局はその人達をして、從來と反對に、人間に眞に必要な文化的正業へ轉職させることになるのです。殺人の兇器を造る者が減じて、新しく興る有用な生産事業の上に勞働する人達の殖えることは實に結構です。

但し其等の失職者には、新しい職業が得られるまでの生活の保障として、國家が超弩級艦の一隻や二隻を造るだけの費用を轉用して支給しても好いと思ひます。また一方で國民の生活に必要な新事業を國家が興し、軍備の縮小から剩し得た巨額の財力を其れに利用する事も失職者を救濟する正

當の方法であらうと思ひます。

軍人の失職者を生ずる事も、已むを得ない文化生活の犧牲です。その人達は少しも失望すべきで無く、之を機會に、その能力を最も現代的に意義のある方面へ轉用する事が出來るのを自ら祝福されて宜しからうと思ひます。中將で豫備になつた或人が、現に一高へ入學して大學敎育を受ける準備をしてゐられ、一高の名物男になつてゐると聞きます。また大阪には同じく豫備中將で進んで工場勞働者になつてゐる人があると聞きます。かう云ふ事は知らぬ他人の私達が耳にしても愉快な新生活です。一生に二人前の生活を經驗するのです心的に、體的に、何等かの勞働能力さへ持つてゐる軍人達なら、現職を退いても決して自己を試す新生活が開かれない事はありません。

○

世界の合議機關が國際的正義の威力に由り、各國の軍備に制限を加へ、軍閥と資本家との侵略的野心から生じる人類の脅威と災害とを防止する端緒を開きましたが、この次に起る問題は、世界に於る生産品の價格を協定して資本家の射利心を抑へ、人類の必要品を出來るだけ平等に、且つ容易に充足させると云ふ事では無いかと思ひます。尤もその場合には生産に要する諸種の原料——鐵、羊毛、綿花、石炭其他——を凡て圓滑に補充し合ふ規約が出來、また勞働者の收入も賃銀と云ふ性質のもので無くて、國家的報酬若くは生活費の保障と云ふ意味で支給する世界共通の規定が出來るでせう。さうして、生産が少しも射利の目的とならず、專ら人類の文化生活に必要な物質を供給するだけのものとなるでせう。從つて利殖を能事とする資本家が無くなり、企業家と云ふ勞働者と、職工と云ふ勞働者とだけが生産に從事することになるでせう。私の想像では早晩、資本主義は滅びます。さうして、資本家と云ふ者が凡て善良聰明にして勤勉な新しい勞働者に轉宗する時代が來るだらうと思ひます。

○

一面を見て說を立てると偏頗に陷り易い。言ふ

人は意識しないでも、公平な觀察者から見ると、それが誇大にさへ感じられる。一面觀――謂ゆる馬車馬風の見方から來た批評や意見は怖ろしい。

人は多少とも誰でも一面觀に傾いてゐる。それは人の能力に限りがあつて、人生の全面に觀察を行亘らせる事が出來ないからです。注意して全面の中の幾面でも出來るだけ多く觀察すると共に、猶その外に自分の知らない多くの方面がある事を忘れず、他人の意見を聞いて自分の短所を補ふ心掛を怠らないやうにしたいと思ひます。

獨斷は斥けねばなりませんが、懷疑は喜ぶべき心理です。前者は一面觀から生じ、後者は一面觀に甘んじないで、汎く且つ正しく知らうとする所から生じます。私は『もう何事も解つた』と云ふ風な心持の人達にあきたらない。一つ解ると、また其先に解らない一つの事柄に突當り、それを何とかして解決しようと苦心するやうな人達が私には尊敬されます。

文化生活の主要な條件は、一も二も三も愛と道理とで生きようと努力する事です。愛と道理とを缺いた所に文化生活は成立たない。さうして、この二つが人間の內心に本から備はつた靈性である限り、何人にも愛と道理とが缺けてゐる事を憂ふる必要は無い。唯だ愛と道理とが從來の人間に甚だ不完全にしか磨き出されて居ない事を憂へるのです。また、現在のやうに愛と道理とが乏しい社會では、不幸な事實が斷えず起るのは已むを得ない事ですから、此事情の中に、何事に對しても同情と寛恕とが必要である事を知らねばならないと思ひます。

私達の愛はまだ甚だ狹くて淺いのが事實です。愛の中にどれだけのものを攝取してゐるかと反省するなら、たかだか家族と朋友の範圍を出てゐないのに氣が附きます。家族の愛と云つても可成りに怪しい。親子夫婦が屢々その愛を忘れて利己的な感情に中に反目し爭鬪し合つてゐます。裏面から見て眞に睦じい家庭と云ふものは案外に尠い。精神的にも經濟的にも獨立の能力の乏しい弱者が習慣の勢力の下に家庭を利用して協同生活の形を維持し、事實は不愉快な生活を續けてゐる家庭が

多いのです。朋友に到つては一二の親友を除けば功利的に利用し合つてゐる、若しくは形式的に交際して合つてゐると云ふのが、その實情です。どうかすると、親友さへも裏切り合ふ。却てほんとうに中心から敬愛してゐる人が、自分から遠い、友人の外にあつて、而も朋友として接近する機會が與へられずに居たりします。一體に資本主義の社會では人と人とが已むなく食ひ合はねばならぬやうな關係に置かれてゐる上に、餘勢を持つてゐる歴史的道徳が人と人とを形式的に束縛して却て精神的に背反させてゐるのですから、功利的利害を越えた家族とか朋友とかは成立ちにくい時代であるのです。

と云つて、現代の多數の人間は決して之に滿足してゐる譯で無く、誰も精神的に自分の生活の行詰りを感じ、從來の道徳觀などから見たら突飛の批難を受けても、現狀を打破して新生活の端緒を拓かうと云ふ氣分が心の底に動いて居ます。「解放』とか『改造』とかは此意味の標語です。然るに勇氣を振つて自己革命を實行する先驅者が現れると、社會は之に同情と寛恕とを贈らないで、却て嘲笑の資料とし、虐待を與へて自ら疚しいとする所がありません。常にジヤアナリズムを攻撃する識者達までが新聞記事に由つてのみ說を立て、その狹い一面觀を基礎に資本主義道徳の擁護者と同じやうな口吻を以て、その憐れな時代の犧牲者を責めます。愛と道理とは抽象的には兎も角、この生々しい人間的事實に對しては、全く行はれないのです。

愛と道理とが極端に乏しい場合に、男は暴力に由つて自己を主張し、女はヒステリツクな言行に由つて他に抗爭しようとします。それが却つて愛と道理とを裏切る不穩の行動であるのは言ふまでも無い。併し社會は其れを責める前に、其人をして其樣な不穩の行動に出でしめた原因が社會自身にある事を反省しなければならない。刺客が現れたり、良人に離婚を宣言する女子が出たりすることは、現在の社會其物に罪があります。人に其樣な非常手段を取らせるまでに、社會が窮屈に、陰鬱に、不合理に、非人道的に行詰つてゐるのです。その責任は社會連帶の責任として何人も分擔しなければなりません。

私は新年の諸雜誌に於ける識者の議論が、今猶輕佻なる態度と無反省な心術とを以て、白蓮女史の問題を議しつゝあるのに顰蹙する一人です。

四國協約と世界平和

稲垣守克

國際聯盟と米國

米國が國際聯盟に加入しなかつた表面上の原因は國際聯盟規約の第十條及第十六條であつて、內政上の原因は民主黨ウィルソンの行動に對する共和黨の不滿である。米國は正義人道の爲めに大軍を歐洲にまで送つた程軍國主義を憎んだ國である。大軍を送つたことは眞の平和主義に反するかも知れないが「平和を愛するが爲めに、平和の攪亂者たる獨逸カイゼルを擊つべし」と叫んだ當時の米國人の眞心は十分了解してやらなければならない。大戰後の今日に於ては實際の戰爭を經驗した獨佛英の國民の方が平和を希望する熱度に於て米國人より強いかも知れないが、又他面に於ては英佛獨は永年間の度々の戰爭の爲め敵愾心、偏狹愛國心の支配より免るゝこと困難にして、戰爭に煽動され得る傾がある。然るに米國人には強い敵愾心の經驗なく、戰爭を憎むこと常に變りない。日本に於ては他國を善意を以て解することを如何にも意氣地なしの如く觀て、邪推を以て他國を批評するものが多い。例へば「米國は口に人道主義を唱ふるけれど彼は經濟的帝國主義を以て極東に侵入して來る。彼は決して平和を愛するのではない日本は武力は十分具へて之に對抗しなければならない」と云ふ人がある。此口調を以て軍國主義の方面

が日米戰爭を高唱して、國民に米國の危險を信せしめんとした努力は吾人の記憶に新しいところである

米國は國際聯盟に加入しなかつたが、米國々民の全體は世界の平和組織から遠ざかつたと云ふ非難を心苦しく感じてゐた。勿論大國のことであるから贊否兩面の運動が盛に行はれてゐる事は爭はれない。例へば「平和强制同盟」と云ふ會の如きは米國の聯盟加入の爲めに全力を盡してゐたし、「米國獨立保全協會」の如きは聯盟不加入の爲めに活動してゐる。各に理由がある。現在の國際聯盟、即ち一九二〇年一月十日ヴェルサイユで締結された對獨講和條約の第一部を形成する國際聯盟に加入することは行き掛り上、主義上不可能であるとしても、何等かの形で世界のお仲間入りをしやうと云ふことは各人の希望であつた。

日本に於ける反米論者の中に次の如く論ずるものがあつた。曰く「米國は平和を愛するのではない、米國にとつては國際聯盟などは邪魔物である。かくの如き約束には加入しないで自由に專橫を極めたいのである」と。これは事實を知らない言である。

國際聯盟の本部はスイスのゼネバに置かれて、そこには帝政の國際事務局が在る。國際聯盟の執行機關であるところの理事會は或はゼネバで開かれたり、或は巴里で開かれたり、時々の都合に依つて各地で開かれる。總會は通常每年一回、ゼネバで開かれる。大正十年九月に開かれた總會は第二回の總會である。

理事會は簡單に云へば大國の會議で、規約に依れば九ケ國の代表者が組織する。總會は加入國全體の代表者の會議である。現在の國際聯盟は未だ世界一國家の性質まで進んだものでなく又越國家の性質を

有するものではない。獨立國の戰爭防止の申合せである。之に關しては種々の議論があつて國家が自己の自由を自己で制限するのであるから國際聯盟に加入することが國家の主權の拘束ではない、從つて越國家的性質を有するものではないと云ふのが通說であるけれども、又反對に既に多くの點に於て國際的決定を認め、國家の從來の意味に於ける自由を拘束するものであるから又種の越國家的性質を有するものであると說明するものもある。世界の各國が次第に一國の如き形に進み得るか否か、又はそれがよろしいか否かは別問題として國際聯盟の成立に由つて少くとも過去の國際狀態は新しき時期に進んだのである。卽ち從來は戰爭することが當然止むを得ぬものとせられ、國際公法上に於ては各國家は自由に戰爭を開始し得る權利を認められてゐた。之を假りに私は戰爭權と云ふ。現在の國際聯盟の規約に於ても規約の表面に於ては戰爭は絕對に不可能とはされない。規約を正確に解剖すると戰爭の開始し得る場合も出て來るが、此れは未だ世界がそこまで進んでゐないことゝ同時に四十餘の國々から出た樣々の意見と希望とを一致させることの困難であつたことを意味する。卽ち國隊聯盟の現在の規約は各國の意思を多くの點で妥協させて造つたものであるから不完全なのは當然である。かく規約には不完全にも戰爭の場合を殘してゐるけれども事實に於ては殆んど戰爭を開始せしめず世界意思に依つて解決し得ることを豫想するのである。執行機關である理事會、又總會は同時に國際紛爭を解決する裁定機關となる。一國の中に於ける內閣は理事會に當り、議會は總會に當り、裁判所は常設國際司法裁判所に當る。一國の國內の立法司法行政の機關と國際聯盟の機關と便宜の爲めに比較して考へて見ることが出來る。國內に於ては司法は主として裁判所の權限であるが、國際聯盟に於ては現在では多く理事會が之を實行してゐる

例へば昨年シレジヤ問題に關して聯盟の理事會は國際紛爭を平和的に解決した。常設國際司法裁判所の設立は目下進行中で間もなく開廷せらるることになる。現在のところ國際聯盟の中心をなしてゐるのは理事會であつて、英佛が主となつてゐる。政府の代表者の集會であり、特に保守的、帝國主義の臭味あるフランスが牛耳を執つてゐるから、外部から觀ると國際聯盟は全然官僚的に見える。現在の世界に於て、資本主義的、帝國主義的の大國が專横を極めてゐる如き外觀を呈してゐるものに對して、反對の聲のあるのは尤である。又組織の點から云つても、理事會の如き强國會議に主たる判斷權を與へないで、國際裁判所を中心にしやうと云ふ說も中々有力であつて、所謂「國家聯合案」の主たる點の一つも茲に存すると報告されてゐた。

　國際聯盟の思想は全然平和を愛する國民の理想に其基礎を置いてゐたが、いざ成立して見ると當然の順序として各國の政府の集合になる。政府の會合と云ふものは往々にして國民の意思から遠ざかり安く民主的であるべき筈の國際聯盟卽ち世界人類の團體が、官僚的又は帝國主義的になり安い。之を指導し鞭撻し眞に世界人類のものとするには國民の應援がなければならない。國際聯盟の不完全なる點を補ひ其缺點を修正し、其精神を全人類に理解せしむる爲めには別に國民の平和團體が無ければならぬと云ふ考から、各聯盟國に國際聯盟協會なるものが民間の有志に依つて組織せられた。戰敗者たる獨逸を除外し露國を國際友誼の外に置く間は人類團體として國際聯盟は完全でない。又米國を加入せしむることが目前の急務であるとして、各國の聯盟協會は如何にせば米國を加入せしめ得るかを互に研究し米國加入の希望を表明した。今回華府會議の結果四國協約と云ふ名で事實に於て米國が國際聯盟に近づいて來た事

は自然の順路である。

四國協約の効果

協約の條文は新聞に發表せられてゐるから茲に略して、只其大體のみを記載すれば、第一條は「太平洋方面に關し紛爭が起つたならば事件を考量調整する爲めに他の締約國の共同會商を求める」と規定した判決とも解決とも書いてない。故に之を稱して「白紙と同樣である」と云ふ人が在るけれども當らない。規約の表面には國際意思で國際紛爭を解決すると規定してないけれども、事實に於ては四國の中三國の意思に從つて解決せられる。例へば日米の間に紛爭が起れば、日米は英佛共同會商を求めなければならぬ。その場合不幸にして日本は孤立であることを豫想し得る。英佛米の意思に反して戰爭を開始することは不可能である。故に事實に於て日本は米國に對して戰爭を起すことが出來なくなつたのである。又第二條は外部よりの侵略に對する規定であつて、聯盟規約の第十六條に當る。然し聯盟規約の如く之に對して財政上及武力上の共同行動を規定せず、「事の急に應ずる爲め最有效なる措置に關し了解を遂げんが爲め十分に且隔意なく交涉」するのである。聯盟規約に依れば聯盟に加入せざる國が、例へば歐洲の一國佛國を攻擊するならば、米國は此攻擊國に對して通商を斷絶し、場合に依つては百萬の軍隊を再び歐洲の野に送らなければならない。此義務は米國の國是と一致しないと云ふのが米國不加入の一原因である。今回の四國協約にはかくの如き義務を規定しなかつた。漠然と「有效なる措置」について相談するとある然しながら之も外敵に對する防禦同盟である。故に四國協約は四ヶ條より成る約束であつて、國際聯盟

は二十六ヶ條より成る永久的世界組織であるが、其重要の骨子である戰爭豫防、紛爭解決、外敵防禦の點は殆んど同一である。

四國協約の日本に對する意義は、日本が日米戰爭の夢より全然醒めなければならぬと云ふ點に於て重大である。軍備制限よりも此協約の價値は重大であつて、日本は此際國防の名の下に軍備を心配すべき時ではなくなつた。戰爭に向ふ國民のエネルギーを今後の平和的事業に向けなければならない。

國際平和の精神

人類は戰爭を好むものであるかどうか。此れは根本の難問題である。人性は善か惡か。人々に依つて觀察點を異にするから結論も各異る。私は思ふ、善惡は時代の道德標準に從つて異る。其時代の道德標準に依つて觀察して惡い人間もゐるし、善い人間もゐる。日本人が全部善良であるのでもなく、白人が全部惡いのでもない。日本に於ては不逞鮮人と云つて朝鮮の志士を惡者扱ひにしてゐる。彼等の道德から觀れば愛國者であるかも知れぬ。

人類には生存欲がある。此生存欲が人類の活動の中心をなす。生存欲を滿す爲めに勞働もする。人類が團體を造り國家をなし戰爭をして來たのも其根源は「生きんとする希望にある」。生きんが爲めに他人の窓に手を入れて一箇のパンを盜む。それは盜賊であり、道德の批評を受け犯罪とされる。人類社會のすべての現象は人類が生きんとする努力の結果である。

人類の性質には鬪爭性もあり、競爭心もあるけれども、人類の本能或は性質は周圍の狀態の變更に從

つて變じて行くとは多くの生物學者の一致するところである。人類の性質と人類團體生活との間に密接の關係あることは否定出來ぬ事實である。

人類は團體生活を營む動物である。そして人類の團體は小より大へと進む。人類の團體生活が小より大へと進むことは交通の發達と並行してゐる。道路、馬車の發達せざりし太古に在つては人類の部落生活は小地域に限られてゐた。人類の交通の能力は天然の障害に比して僅少であつた。人類は諸所に部落を作り、酋長が部落を支配し、部落の內部に於ては平和的生活を營み、外部に對しては部落は一箇の鬪爭團體であつた。戰爭單位であつた。各部落は常に戰爭を繼續し、併合が行はれ、同時に交通が發達し、部落が次第に大きくなつた。人類は一家の內部に於ては親子兄弟は多少の爭はするけれども概して平和的動物である。互に殺さぬことを信じてゐる。此信念と經驗とが人類を家庭の內部に於ては平和的動物としてゐた。部落の內部に於ても平和的動物となつた。即ち愛が、自己より發して家族にまで進み、家族より部落の大きさまで擴張されたのである。部落は國家へと進んだ。國家まで進んだ時に人類は大なる天然の障害に遇つたから、數百年、數千年を國家の範圍で經驗しなければならなかつた。即ち日本も英國も四周に海があり、印度の北方には山がある。スペインとフランスの間にも山脈があり、佛蘭西と獨逸との間にはライン河がある。人類はかくの如き大なる天然の障害を越ゆることなく數千年を經過したから人種、民族の差別が生じた。風俗、言語も異り、各國家を造り之を團體として生活した。故に人類の愛は國家の大きさまで擴がつた。そしてそこで止つた。國家を範圍として多くの道德標準が立てられた。國內と國際との間に道德が異つても不思議とされなかつた。國家內に於ては殺人が犯罪とせられ、

可なり進歩した動物となつた人類も、國家の外に對しては猛獸であつた。愛國心とは外國に對する闘爭心であつた。それが最も大切であるとせられた。國家が互に他の侵略を恐れてゐたから、互に生存の必要上闘爭心を養成するのにつとめた。歷史も敎育も時には宗敎も國家本位の上に建設され、子供は母親の敎育と小學校の敎育で、初めから軍國主義的に育てられ、社會に出でゝも社會の敎育によつて國家的闘爭の信念を强めた。

多くの場合に於て國家の最初の政治組織は王樣の政治であつて、戰爭は多く王樣や貴族の野心の爲めに行はれた。少し兵力が强いと他國を征略したくなる。又近代に於ては資本主義の結果多くの國は資本階級の搾取制度に便宜な政體となり、資本階級の力は效治の形に出で、各國は資本主義を中心にせる帝國主義を以て利權の獲得に急いだ。殖民地を取ることが流行し、武力を背後とせる外交で、他民族を壓迫し、出來るだけ多くの富と土地とを自國のものとせんことに努めた。

然して世界の大戰が來た。戰爭は勝利國に對しても利益を與へざる時代となつた。武器の發達は人類を亡ぼさなければ止まない。人類は始めて誤れる方向に進みつゝあつたことを知つた。一方に於ては又交通は發達し、人類は國家の範圍を出でゝ世界に一步進み出つゝあつた。世界經濟は或點に於て既に開始されてゐた。戰爭は自他の破壞である。人類は平和の間に自他の存在と文化の建設に向ひ得るのではないかと考へ始めた。

此れが、大戰中及大戰後の平和思想の基である。

現在の世界を觀ると、如何にも悲觀せざるを得ない有樣である。至るところに人類の淺ましい利己心、

壓迫、横暴、武力、搾取が行はれてゐる。然しながら吾々は人類の將來を大觀するに、どうしても人類は國家より出でゝ世界に向つて進みつゝある、今は其進行の途中であると考へざるを得ないのである。

前途には幾多の障害と、失敗と、退歩とがあるかも知れないが人類は世界と云ふ團體生活に集る。現在に於ては國家をなして戰爭することは人類の本能であるかの如く信ぜられてゐるけれども、周圍の狀態は必ず人類の此性質を變化させる。交通が益々發達し、人類の經濟生活が益々密接し、人類に戰爭の必要が減じ、平和的生活の必要が起るならば國際鬪爭は自然に消滅する。

國際聯盟、四國協約の如き政治の方面の改造も必要であるが、更に根本をなすものは教育である。就中母親の子供に對する教育が、戰爭を避けて、人類愛に向つてほしい。

戰爭より平和へ——國際平和は可能である、そして特に婦人の努力に期待する。

國際婦人會議の提唱

山田美都子

全世界の人類は今未曾有の苦艱に逢着してゐる。大にしては列國の國際間に於ける諸問題、小にしては個人の生活問題に至るまで、矛盾と不合理に滿されてゐる。大國も、小國も、强者も、弱者も富者も貧者も、そして男も女も、持てるものは持てるが故に、持たざるものは、持たざるが故に、知るものは、知れるが故に、知らざるものは、知らざるが故に、覺めたる者は覺めたるが故に、覺めざるものは覺めざるが故に、たゞ其の方面を異にこそすれ、其の難める所以のものは皆同一である。

「噫われ困苦人なるかな……」

との歎聲は、遠い古の聖徒の言葉ではない。あらゆる現代人の胸奥よりの痛切なる叫びである。そして私もやはりその人間苦のどん底にある者として、

「この死の體より人類を救はんものは誰か」

といふ疑問を起さざるを得ないものである。

私は世界中の人間苦が近年になつて漸く發生したとは勿論考へない。白い牡牛にさらはれた美しい妹の行方を尋ねて、海を踰えて南歐の山奥深く辿り入つた若いケドマスが、火龍と闘つてこれを殺し、其牙を地に播いたら、そこから堅甲に身を鎧ふた無數の武人が生長して互に傷け、吼え怒り忽にして修羅場を現出せしめたとある古希臘の神話は何を意味するであらう。私はそこに太古から人類の爭闘の歷史を思ひ合せその爭闘が人類の生え拔きの本能そのものから根ざして居り、從つてそこに止むに止まれぬ人間苦の枝葉の繁みが蟠るといふ事實に想到せしめられる。即ち人間苦は太古より旣に存した。而も輓近の如く全世界を擧げて幾億萬人一樣一統に悲愴な、痛烈な、無慘な人間苦の意識を、まざ〳〵と胸底に刻みながら、人柱の樣に隱忍して生きてゐるといふ樣な、驚く

べき事象は何が爲めに起つたであらうか。それは勿論、我々人類が過去に於いて經驗した最大限度の大爭鬪であつた彼の歐洲戰爭の齎した結果である。

人類は戰ひに疲れ果た。

「軍備を縮小せよ。否徹廢せよ。永遠の平和を確立せよ」

之れ戰ひに倦める者の聲でなくて何であらう。戰爭の末期から、全世界に浮動した新思潮の氾濫は、太古のノアの洪水にも比すべきで人類の歷史は又こゝに一新紀元を劃せんとしてゐる。

然しながら歷史はなか〱直線的に進行しない大正六年、晩秋十一月十八日即ち休戰條的の締結せられた一週間の後であつた。私は私の手記の內に左の樣なことを書きつけた。

大戰亂の禍も
今となつては、明らかに
神の恩寵であつたことを悟りました。
人類の步みは
これによつて急速に
神の國に近づきました。
黃金の冠を載いて、
そして脚には
鐵と泥とに成れる沓を穿いた
驕れる帝王達の末路はどうなつたでせう。
機智をほこるに急であつた
デダラスの裔はどうなつたでせう。
あゝ、
みんな〱永遠の滅亡に入りました。
そして、あゝ、これから、
榮光に滿ちた
峻烈な審判の蓆は開かれるのです。
崇高な、偉大な、端嚴な、美妙な、
あらゆる、眞と、善と、美とは
今に、今に
あつめられてそこに
新な世界の創造が起りませう。
神の約束、
永遠の和平
あゝ、

歡びは雨の如く濺ぎ
天來は風の如く襲ひ來る。
私の魂は
たゞ
醉うてゐます、
踊つてゐます、
泣いてゐます、
うれしさに。

當時私は早速に來らんとする平和會議のことについて色々なヴイジヨンを逞うし、改造の世界について樣々なイルユージヨンを抱いた。多くの物事を直ちにアイヂアライズして考へる癖のある私直覺的に感得したことを獨斷的に信じて了ふ癖のある私は、よくいへば詩人肌のピユーアな考へから、惡くいへば子供らしい幼稚な、甘い性根からウヰルソンを過信したり、ヴエルサイユの會議そのものを直に神の審判と考へたりして、合理的の新世界の出現を一日一刻も早くと待ち望んでゐたのであつた。

然し平和會議そのものが、私の希待を裏切つた事は甚しく、又改造運動も、我が國に於けるの夫れは殊に、運動者の側も一般民衆の側も共に眞摯な態度を缺きたゞ興味本位の彌次りあひか賣名的の虚僞に滿ちた八百長に看られる程度のものが多くて、戰後の新世界について初め私が描いてゐたことはすつかりデスイリユージヨンさせられてしまつた。この時に際して米國側から突發的に企劃せられたのは這次の華府會議であつた。私はその主催者の何人たると、會議の何國に於てせらるゝとを問ふの要もなくこれは當然平和會議の延長であると考へた。そして先きに取殘された軍備縮小問題が將に今度に於て議せられるべきであると考へたものゝこれに對してはあまり多くの期待をかけなかつた丈に失望もさうとりたてゝいふべき程の事ではなかつた。會議が既に終了して使節は歸途についた。併し、各國が世界の人間苦のために議さねばならぬこと、諮らねばならぬことはまだ〳〵澤山とりのこされてゐる。私は經濟問題、教育問題、勞働問題、婦人問題等直接現代人の生活にふれた、實際問題について各國人が各々の代表

者をあげて忌憚なき意見の交換を行ひ、共に相提携してこの澎湃たる人間苦の世界的氾濫をせきとめて、一日もはやく眞の新世界の創造に努め、人類の福祉の保障を立てんことを望むものである。殊に切望に堪へないのは、婦人問題に就いての國際的會議の開催せられんことである。我が新婦人協會が、夙に我が國婦人の啓蒙に志して、その爲めに多大の犧牲を拂つて、殊勝な、文化戰の戰線に立つてゐる事の價値もそういふ機會に於いてこそ明瞭に定められるであらう。私達は旣に世界に於ける一市民として近代的苦惱の渦に虐まれてゐる上に、身婦人たるの故を以て更に、婦人苦の苦難をも具さに體驗せざるを得なかつた。私達婦人がこの二重の苦惱の鐵鎻から自らを解放することは、世界の人類としては莫大な幸福であらねばならぬ。我が國の一般男子が偏狹なる傳統的固執を以て弱者たる多くの婦人の上に加へてゐる、侮蔑と壓迫と、暴戾とは、世界の公道の許さゞる處である。これを國際的會議の淨玻璃鏡前に持ち出したら我が國の男子は果して强辯なし得るであらうか。多年我が國民の上に加へられたる軍閥の壓制の弊がこの度の國際的會合の爲めに著しく反省を促がされた樣に、男子專制の我が國の誤れる社會道德が國際婦人會議のために一大變革を見たならば我が國の文化の上に、一般國民福祉の上にどれ程の利益であるかわからない。

　旣に原始以來の間斷なき鬪爭につかれはてた全世界の人類は過去に於いて逞うした爭鬪的本能の上に大なる節制を要することに就いて痛切に反省を促されてゐる。然かもその爭鬪的本能の發動する窮竟の動機が種族保存の爲め即ち愛欲のためにするの機會がおほい事を考へると、人類の爭鬪性は決して絕對的なものとは見られない。教育の如何によつて反對に人類の相互愛的情操を掬育して戰爭を未然に防ぎ、生命の浪費を止め、最大多數を文化の滋液に潤はしめる事が出來るものと信ずる。軍備を縮小することを以て戰爭防止の能事了れりとするものがあつたら嗤ふべきの至りである

　之の意味に於て我が國の或る教育團體がゼネヴアの國際會議に、國際教育會議開催の提議をなし

たといふ事は最も妥當な措置として私達は、推賞したいと考へる。そしてそれと共に、前述の國際婦人會議の開催についても我が國の有力婦人がこの際敢然と立つて、その準備をなし、主唱者として可及的速に之が實現をはかることを切望する。私達はその事については理想も抱負もあることはあるが問題が大きい丈に少數者で實行するわけにも行かず、とりあえず、意見丈を發表して、汎く國内有志婦人の熟考を促して置きたい。

　婦人は何人と雖もその人の母たるの立場から、世界改造の上には教育上當然に重大なる責任を負うてゐる。現代の我が國婦人の如く、日常茶飯事にのみ沒頭してゐて、宇内の大勢には眼を塞いで醉生夢死的の生涯を送つてゐる者の多い樣な事では我が國の將來の文運も、あやぶまなければならぬ。むしろ内國婦人界の覺醒のためにも、前述國際婦人會議を速かに提唱した方がよからうと思ふそして、會場も東京に設けるといふ樣にしたならば、我が國の婦人にとつては、よき經驗となり、一般男子側の覺醒を促すよい材料にもなるであらうと考へる。（一一、一、二七　美都）

冬のひかり

山田一夏草

寒未だあくる山間ある朝の陽の光冷たく樹々を照らせり
はだらかに雪光りたる遠畑に鴉はなきて行きにけるかも
末枯る丶丘の傾斜の草原に冬の陽ざしの淡き夕ぐれ
夕去れば寒さましくる庭さきの一本の樹に雀は來る
窓あけて夕暮山に向ひたれはろ〳〵しもよ風のさやぎは
此の日頃務せわしみむかはさりし机の上にほこりたまれり

詩三章

岡本かの子

○

悲しきときは野にいでて唄をうたはん
わがごとく其處にさまよふ人あらば
もろともに聲を揃へて
唄をうたはん。

○

因緣は
どんなに善良な人のかげにも
常にいくばくかの犧牲者を置く
私は

私が何か損傷をうける度に
過つて私が不利におとした人の
よい供養にもなれよと祈る。

○

恥多き身はいつまでも
闇にこもりてあらんと
われいつまでもひとねをかづけり。

○

光は——白金のごとく導く浄き朝の光は
閨の戸のひまよりしたたり
恥となやみの鉛のごときわが額を
いとも靜にやはらかにくちづく——。

—(一〇、一二)—

寂流の音

楫本まさを

こんな山の奥だとも思はずに、温泉にやつて來ました。旅館は三軒あつて、一軒だけが如何にも羽振りをきかしてゐます。その羽振りをきかしてゐる方に、私達は泊りこみました。さうして、更に山の崖つぷちに建つてゐるあの人の別莊の一戸を借りることにしました。

その別莊は三疊と六疊と、勝手付きの非常に小ぢんまりとした、而して瀟洒に建てられてゐます別莊は十棟ほどあつて、成金でも栖まゐさうな立派なのもあります。が季節が季節なので、どこもこゝも、みながら空（あき）です。

「こんな洒落れた別莊を幾つもたてゝ、安く貸してゐては引あいませんな」

と私はそこの支配人のS氏に言ひました。すると、私の觀察はあてが外れて、實はある大きな會社の女社長が日蓮宗に篤く歸依して、その信仰の結果、ある東京の郊外に小學校を建てたり、日蓮宗のお寺を建立したり、又こんな別莊を幾戸となく立てゝ諸人の便宜を計つてゐられるのだときゝました。

「金がある人はどんなことだつて出來るな」

などと、不斷ならば、いきなり馬鹿にしてかゝるのですけれども、何分こんどは私もかうした心の破滅をいだいてゐます。さうした信仰生活の強い人のことをきくと、一種の感に打たれないではゐられませんでした。

「一體その方はどんな人です?」

などと言つて、種々きいてみました。支配人は自分の主人のことですから、出來る限り善い方面ばかりを擧げて言つたのだらうと思ひますけれど

も、何しろ女の身で、寺を建立したり、小學校を建てゝ府に寄附したり、かうした山林避地の繁榮を計つて、一寸した小さな事業でもやつて見やうといふ、餘程しつかりした女丈夫的な人だらうと思はずにはゐられません。

その支配人の話しでは、文字をかゝせても中々男も及ばないし、文章をかいても中々大きな思想を掴んでゐる、などと云つてゐました。ところが驚いたことには、その前半生をきゝますと、何でも柳橋か芳町かに左棲をとつてゐた人ださうです

さうきけば、今日の生活に上りつくまでには種々と曲折した道を歩いて來た人だらうと思ひますけれども、それだけそのあらゆる艱難な生活が、その人の血となり肉となつて、次第にその人を强めて行つたのだらうと思ひます。立志傳的に成功した人としてその人を見るほど、私も人は好くないのですが、ともかく强い信仰をしつかりと掴めるほどの徹した心の所有そのものが、私には羨しく思はれてなりません。

「矢張り旅はして見るものだな」

などと思つて、太平樂な氣持ちで湯に浸つてゐます。この湯もその人がこの山村に不相應な洒落れた建築で作つたもので、流石女だけに如何にも痒いところに手が屆いてゐるとでもいふ風な設備です。

□

村には何にも見るものはありません。唯終日風が吹いて、雪の上を渡つて來る冷たい山氣は肌を襲ふやうな氣がします。淺流は夜に入るとゴーといふほど强い音をたてゝ流れてゐます。如何にも夏の避暑に好いところかと思ひます。

何しろ寂しいことは、私にとつて空前絶後です

「猫の子一疋ゐない」

と言つて母は耐らないやうな顔をします。

母と二人で、夜湯から上つて歸つて來ると、山と山との重なつた黒い陰が、何となく脅かすやうに心に迫まります。その時に、私はひよいと觀音經の一節を口ずさみます。何だか自分の歩く下駄の音が虚空にひゞいて、一種異樣な寂しさを與へます。

室に歸つて話しをしてゐますと、母の袖口が、かるく、障子に觸れるのも、異樣に耳につくといふわけです。思はず母は私の顏を見ます。若い時から人一倍淋しいのが嫌ひで、幽靈の話しをきくだけでも、縮みあがる女です。私もその母の子ですから遺傳的に恐怖心は强い方です。

ですけれども、寂しさに徹しなければ、本當の自分の心は分らない、どこまで寂しさに耐えられる自分か、どこまで世間から離れられる自分か、などと頭の中ではかうした考へで一杯になつてゐます。

ところが母はさうぢやないのです。

「まあ、こんな寂しいところに、いつまでゐるの？」

などと折々泣き出しさうな顏をします。

「矢張り信仰が弱いからだね、矢張り神とか佛とかの絕對なものに歸依する氣持ちでないからだわね。いつそ私がこの山の中で死んで了ふと好いねさうすると、母さんはしつかりと神にすがり付く心が湧くからね」

などと私は淚を溢ぼしながらやり始めます。いな、母に言つてゐるのではなくて、自分自身にいふ言葉です。

□

Ｏ氏の御良人から伺つて、來る時に異宗の聖典を一冊手に入れて來ました。尤もこれは買はうと思つてゐたのを、ある人から贈つて貰つたわけでしたが。この聖典の中のめぼしいものは、貪るやうに讀みつくして了ひました。而して感心して了ひました。

この親鸞上人の信仰は、本當にこの他力信仰だらうか、親鸞自らが、全く如實にこの他力信願で徹底してゐられるのだらうかと、ほと／＼、半ば疑ひ、半ば感嘆して了つたのでした。

絕對他力の信仰といふことは、中々の信仰ですこれ以上の强い、動かすべからざる信仰は外にはありません。

「法然上人にすかされ參らせて、地極に落ちるとも、さらさら後悔いたさず候」といふ邊りに至つては、迚も人間の氣持ちではありません、まこと

に何物も願はざる心、求むるものゝない心、所謂無上道の心です。これこそ佛敎他力信願の極地だと思ひます。

ところで私はこの上人のこの言葉に一種の淋しい疑ひを懷かざるを得ません。これも私の凡夫の身として仕方がないと思ひます。なぜなら、上人は、法藏菩薩が一切衆生を救はん爲めに、四十八の願をたてられて、正覺を得られたから、自分達は正に極樂淨土に生まるゝことを得るものであるといふ信仰に些かの疑ひをも懷いてはゐられないのです。然るにこの信仰があやまつて、地極に落ちるやうなことあつても、さら〳〵後悔を致さないといふに至つては、絕對無上又何者をも犯すことの出來ない信仰ですけれども、これが何うしても私には自力の信仰だと思はないではゐられないのです。

地極に落ちても構はないのですから、この世に於けると、來世に於けるとを論せず、一切を佛、即ち無上絕對のものに任せきつて了つて、自分は正に何者をも求めず欲せず、一切を超越しきつてゐるのです。

この境地が、私は禪の「心は明鏡の如し」といふ絕對自力の空觀說と一致してゐるやうに思はれてなりません。

禪の自力で徹底すれば、世間もなければ、二乘心もなし、又需めるものは更に何一物もないといふ、淸淨心の境地と、そこに何等の差もないやうな氣がします。

そこで私は自力で行つても、他力で行つても、信仰の境地は同じものだといふことを感じました

この眞宗の聖典と合せて見るために、禪宗の聖典をも手に入れまして、せつせと讀んで見ましたが、まだ座禪もやつたことのない身で、直ちにこの宗門の敎義を云爲することはまだ淺慮な態度ですけれども、ですけれどもこの宗門に於ける、無上菩提心といふのは、親鸞上人の往生決定とちつともちがはないと思ひます。といふのは、金剛經や乃至は心經に現はれてゐる佛法といふものと、觀無量壽乃至大無量壽等の經文の中の佛法と、全くそこに一點の差異も認められませんもの。

そこで私は、古人がこの各々異つた教義を以て一切衆生を吸收せんとしたその努力と云はうか、信仰と云はうか勢力と云はうか、その偉きな絶大の力には恐れて了はずにはゐられません。

けれども人間といふもの丶人情は何處まで行つてもちがはないものですね、これほどの信仰を確立した洋々たる海の如き親鸞の心にも、自力の宗門を非常に、口を極めて罵つてゐます。外に日蓮ほど口汚なく排他的にやつつけてはゐませんけれども、それだけ深刻な氣持ちがします。あのクリストが、學者達を嫌つたと同じ意味に於て、この自力宗門の人達の口吻が非常に小癪にさわつただらうと思ひます。

如何でせうか？

ところで私は慾の深い話しですが、この眞宗の信願と、自力の宗義とを二つを一つにして信じて行き度いといふ本願をたて丶ゐます。何故なら、直接に經文を讀みますと、觀音經——法華經——にしても、般若經にしても、みなこの他力的に自力的に佛地を開いて行かねばならぬことが、示されてゐますから。

ところで面白い話しがあります。この間ある男が、本誌の一月號を讀んで、

「どうもこの女子の參政權問題は、怖ろしい感じを人に與へるね、權利、權利、と云はないで、もつと何とか婉曲な言葉がありさうなものだが、この權利のみを主張されるものだから、男の方では何だ、生意氣な、と思ひますからね」

と申しました。ところで私は、

「それぢや權利といはないで、義務と云つたら何うでせう、母性權、と云はないで、母性義務、別に文字の異ひこそあれ、得るところは身一ですもの、矢張り男子同樣に社會的にも國家的にも、個人生活の上に於ても人間としての義務を果して行き度いといふ要求ですから、權利といふから怖ろしくきこえるでせうけれども、義務と云へば、殊勝にきこえませう」と申しましたら、

「それやさうです」

といひました。

義務と權利との二つに分けるのが滑稽です。然

政權は女性義務の擴張として見たところで、差支へはないと思ひますが、ものゝ兩面大極を見てゐるといふ男にも、矢張りこの核心を掴むといふことはむづかしいとみえて、行くない空騷ぎをやります。

□

ところで又話しがあとへ戻りますが、私がかうやつて都會から離れて、黴くさい本を抱へこんで寂しい不自由な山莊生活をやつてゐますと、ある親しい友人などは、

「まるで一種の狂氣だね、今更ら觀音經でもあるまいぢやないか、近代人の宗教は、不斷の動、不斷の流轉、といふことだ、他力本願なんて、ちやんちやら可笑しい。煩惱を斷なんて、そんな徒浪な自己主義な時代錯誤の話しはない」

などと言つて叱つてくれました。そこで私は、

「佛教は古いものでせう、又近代思想ではないでせう。けれども科學だつてどこまでが近代的のものであつて、どこまでが過去のものといふことができませうか、況や思想なんていふものは、どこまでが近代でどこまでが過去だと云へるものですか、して見れば過去の文化生活の中心であつた佛教に自分の思想の根據を仰がうとするのは、別に無理ではないと思ひます。

それに不斷の流轉、不斷の動、といふけれども動も流轉も共にひとつの大きな靜から立脚したものでなければ、動も流轉もないと思ひます。人生を動と見ても、靜と見ても、人生そのものには何の變異もないと思ひますが、その動であり靜である人生の究極したるものそのものを最も簡易に說明したものが佛教ですから、それに憧がれて私は讀んでゐるのです。

又煩惱といふ言葉も、いろいろあつて、佛教では一切求むる心を煩惱としてゐます。私は人間の心の浮つ面にうかんでゐる、儚ない煩惱だけを斷つたならば、その底に沈んでゐる、根據のある、深刻な煩惱が現はれて來はしないかと思ひます。これを佛教では無上道だとか菩提だとか言つてゐますけれども、私はそんなものでなしに、これこそ深刻な一つの强い人間性だと思つてゐます。

既成宗教では救はれません、全くです。既成宗教では、たゞそれだけの圓熟した生活の形骸だけですから、近代生活に何の緣もないことは當然の話しです。

けれどもそれかと言つて近代思想の今日までのものに、何があるでせうか、果してどこまで私達が安心して、自他の生活の根據を見いだせるだらうかと疑はずにはゐられません。そこで私は個人的の生活の根據、生とか死とか、對社會とか、の問題を佛教的の意味に解決したいと思ふのです」

とまあ言つたやうなわけで、讀んでゐますが、この考へがいつまで續くか、近代的の動から動へと動くやうに、この思想がちきに泡沫のやうに消えて行つて、又ちがつた新しいものに移つてゆくかわかりません。

とにかく平易に言へば、私は今日までの自然主義といふ肉的な生活を人間の本來のものとした主義や、又それをやゝ廣義に解釋した人間主義や、又社會改造、民衆生活などを高調した幅ばかり平面ばかり擴げた主義などには、とんと滿足できなくなりました。もつと自分をしつかりと置据えるやうな生活が、どこかにありさうなものだ、などと思はずにはゐられないのです。そこで私はかうして病氣を治療する目的と共に、こんな避地にまでのがれて來ました。

□

クリストの所謂「心の貧しき者は幸なり」といふ言葉位、深い教へはないと思ひます。佛教の無所得の心、と同じ心ではないでせうか？

けれども私は、前者は心の貧しさ、寂しさを以て、神から救はれるのですし、後者は持てりと思へるものを捨てゝ、一切無所得に歸して了ふのです、出發點はちがひますが、この究極は同じものだと思ひます。

けれども私はこの心の貧しさの經驗が淺くつて困ります。時には自分が天地にも離れられがたい罪業の身であることを感じて、寂しさと貧しさと貧しさとで耐らなく感じることがありますが、時にはそれがまた直ちに救はれて、この貧しさなればこそ、神の心佛の心を感じることが出來るのだ

と、思はず伏し拜みたいやうな氣持ちになることがありますが、それと又反對にあとで考へて見ても滑稽なほど、增上慢な獨斷的な偉さうな氣持ちになつて見ることもあります。その時はこの增上慢な氣持ち、太平樂な氣持ちは好いものです。凡そ自惚れてゐるほど、赤子の氣持ちはないと言つた人もありますが、一番他愛がなくて幸福なのですが、さてその氣持ちが刹那にして醒めた時、その寂しさ苦しさ心細さはお話しになりません。

さういふ時には私は努めて本をよまずに、この情けない救はれがたい氣持ちの長く續いて、煩悶懊惱で身を苛め拔いてやりたいと思ひますが、でも矢張り駄目ですね、矢張り駄目ですね。矢張り饑え渴くやうにその心の救ひを需めます。そんな時の讀んだ經文の句などは、特に身にしみて感じられます。

「心の貧しきものは幸なり」ほんとうにさうですね。

□

ある人が、東洋思想はすべてものゝ結果である到着點である、吾々は到着點が尊いか、その道程が尊いか、何れであるかときかれたら、何う答へるかと云ひました。私は道程の尊さは、到着點が見えた時だ、と申しました。

即ち科學は道程です、しかし宗教は到着點です少なくとも佛敎は到着點です。人生最後の結着點です。

私は佛敎が彼岸なら、彼岸の到着點にまで行つて見て、そこから再び河流に歸つて見ては何うかと思ひます。一概に彼岸を排斥して河流で迷つてゐたつて、それも人生と云へば云へますけれども尊さが少ないと思ひますが何うでせう。

あまりに小さな狹い考へ方でせうか？ 矢張り結果といふものを目標におかずに、せつせと道程に於て發見してゆくのが、それが本當の道でせうか？

□

この頃は妙に性欲といふ問題が深く頭に入つて來て困ります。感情でなしに、たゞ頭に於て考へられるのです。近來のやうに孤獨で性欲から全然

離れきつた生活をしてゐる爲めにさういふことをも考へ出して來るのかも知れませんが、性欲をもつともつと輕視して、或は更らに全然斷つて了つて、而して人間としての生活があり得るやうに思はれてならないのです。

　なぜなら女性といふものが、今日まで餘りに性慾の對照として見られてゐたからです。性慾といふものがあればこそ、女性とか男性とかの區別があるのだけれども、性慾を除いて了つたら、又そこに自然な、又は超自然な性の區別のない、男性でもなく女性でもない人間としての生活が發見されやしないかなどと思ひます。

　が性慾なんぞ、何うでも好いことですね、佛教なんかでは、これを煩惱として最も輕も果して扱つてゐます。私もこの問題について女性としての立場から、明白に言ひ切つて了へるほどの信念を持ちたいと思ひますけれども、今では唯あつてもなくても好い、小さな煩惱だと思つてゐます。

　しかし唯これだけは感じます。かりに茲に思想的にも趣味に於ても一致した男性の一人に逢ふとして、そこで愛が起こるとしても、この人と戀におちた結果、矢張りその戀愛の終結は同棲であり家庭を持つといふことになります。すると矢張りその家庭なり同棲なりの結果は、煩はしい世間的なあつてもなくてもよい煩些なことに囚はれて、折角の孤獨な、寂寥な、　い情緒を亂されて了ふに異ひないと思ひます。それは然うでせう、二個の異つた人間と人間とが一緒に暮さうといふのですから、そこに種々と相反した厄介な衝突が起きるにちがひないのですもの、その衝突そのものこそ、戀愛生活の半面だ、と言つて了へばそれまでですけれども、私は矢張りそこまで行つて了はずに靜かに寂しい心を抱いて、花やかな戀愛生活を客觀的に眺めてゐる方が、寧ろ安易な氣がします人間の本當の幸福は、この孤獨な寂寥な心そのものだと思はずにはゐられませんから……。

　それに私は異性の家庭生活にはもう懲々して了ひました。異性はほんとうに、一時間なり二時間なり、語合つて別れるものだと思ひます。

　私がかうして孤獨だといふことが、自分の心で疚しい氣持ちなのに、どういふ種類の男にも、性慾といふものの聯想なしに、話しをすることが出來ます。たとへばその人の人生觀なり、又智的な話しなり、宗敎的な話しなり、何なり勝手な囚はれない範圍での話しが出來ます。

　これこそ孤獨の有難味だと感謝せずにはゐられません。私はこの年になつて、しみじみ淡い人情の中に、いふに云へない味のある事を感じました。

　これが一人の戀人なり愛人があるとさうはゆきませんから、たえず念頭にそれがあつて、囚はれて行きますから、全然自由な氣もちにはなれません。

——二一、二二——

私の見た亞米利加の社會事業

小橋三四子

私が歐米の婦人界視察のために日本を出發しましたのは大正八年の八月でしたが、昨年の十二月に歸朝いたします迄の丁度二年四ヶ月の間に於けるわが日本の社會の變りやうは、まことに目ざましくおどろくばかりであります。ひとり日本ばかりではありません、世界が非常な勢で變化しつゝある事を、全ての旅行者は見るのであります。歐洲大戰後には、國際聯盟會議が始まり、ひきつゞいてワシントン平和會議、國際勞働會議、國際聯盟會、國際婦人平和會など各種の超國家的な、平和促進のための國際的會合が企てられて、それ〴〵發展しつゝあるのであります。全く、いまや全世界は大きな轉移期に會してゐます。從來の國家的割據から國際的に、戰爭より平和に、更に男子專制より男女協勞へと、新しい社會的秩序への推移を急いでゐる事を何人も認めざるを得ないのであります。この世界的轉換期に私が旅行をして、それ等の情況を目のあたり見る事が出來ましたのは私の深く幸福とするところで、中でも最も強く感ずる事の多かつたのはアメリカでした。フランスでは多くの人が、女學生に至る迄も、私共が湯や水を呑むやうに葡萄酒を飲んでゐるのが特に眼に着いた事でした。戰後の獨逸の疲弊してゐる事は全く想像以上で、托兒所を見た時子供の過半數が梅毒と營養不良とで、眼もあてられぬやうな有樣でありました。

それ等に比較して、アメリカでは社會衛生が實によく行届いてを

新刊紹介

アッシジの聖クララ（二階堂眞壽氏著）

貴族、富、智慧、美などの一切を惜しげもなく捨てゝ、一切を基督に捧げて聖フランシスの弟子となり、修道院の生活をなした聖女の傳である。この兩聖者の間に於ける愛の交りと貴き同情は、全篇の骨子をなすものである。

文章も大變デリケートでこゝろに泌み込んで來るものがある。（東京牛込神樂町叢文閣、定價金壹圓三十錢、送料六錢）

ホイットマン詩集（有島武郎氏譯）

ホイットマンの詩については今更喋々する必要もあるまいが、我日本に於て殆んど望み得る限りに於ての最上の譯者を得た事は、讀書界の爲めに此上もない悦びであらう。（東京牛込區神樂町、叢文閣定價一圓九十錢　送料六錢）

内に聽く（高安やす子氏著）

氏の第一歌集である、纎細で、そして鋭敏な直觀を以て自然をうたひ人生を歎

ります。これはみんな婦人の手でなされてゐるので、婦人の力が如何に大きく、廣く働かれてゐるかに驚かずにはをられません、全國的に斷行せられた禁酒が、全く婦人の意志と努力に依つた如く、萬事が婦人のはたらきに依つてゐるのであります。これ迄アメリカといへば殖民地國として、何となく野蕃な人々の住む國のやうに考へられてゐたものですから、多くの旅行者がイギリスやドイツは賞めても、アメリカをほめる事は憚つてゐたやうでしたが、これは大變な過つた考へ方で、アメリカの社會事業は全く世界の模範とするに足るものである事は、親しく旅行した程の人は否む事の出來ない事實であらうと思ひます。

　これはアメリカだけに限つたことではありませんが、歐米の社會事業の多くは、積極的よりは消極的であり、攻勢的であるよりは豫防方法に力を注いでをり、宗教的といふよりも科學的で、又、個人的の經營より移つて、都市、公共的の仕事になつてゐるものが多いやうであります。アメリカで、牢獄の如きものも、訓育學校とか感化院とか稱して、所謂牢獄といふやうな言葉を避けてゐるやうに、そのやり方もそれに相應しく、懲罰をするところではなくて、敎育を授けたり、職業を與へたり、するところとなつてゐます。ニユーヨークのシンシンプリズンといふのは最も重大犯人の入るところですが有名なハドソン河畔に建てられた、カレーヂのやうな立派な建物であります。其の人口には四季折々の草花が茂つてゐて、裝飾せられた應接室などもあります。又自由な形式で禮拜の出來る敎會もあるし、活動寫眞館や舞臺などさへあつて、寢室はいかにも紳士淑女を容れる寄宿舍のやうで、額なども掛けてあります。又婦人の初

ひ乍ら、又綺麗なものが非常に多い。裝釘畫も挿畫もみな氏の手になつたものであるが、氏の豊かな藝術的天分は驚くべきである。（東京芝區、玄文社、定價金貳圓貳十錢）

相寄る魂　（生田春月氏著）

　詩人として、名のある春月氏の處女作で、全三卷で千八百枚を超ゆる長編である。それは哀れな一編の詩であると同時に辛辣な時代の批評で、不幸なる天才を主人公として、不遇な文士、不良少年、老政客、無政府主義者その他十幾人の少女を描いて作者の典雅にして高邁な筆は餘す處がない。（東京牛込區、新潮社、定價前編二圓、中編一圓六十錢）

日本改造の意義及び其の綱領

（鈴木梅四郎氏著）

　各國に於ける社會運動を網羅してその由來さ現狀さを闡明し、一々深刻な批評を施し乍ら、日本の新しき國際的地位を論じて、空論に非ざる實行可能の斷案を下してゐるものである。（東京京橋出雲町實生活社、定價金貳圓三十錢）

犯者を收容する感化院では、女學校のやうに知的敎育を授けるばかりでなく、料理や裁縫も敎へてゐます。そして全く家族的に、七八人宛を一組にして感化してをります。未成年者を容れる少年感化院では、勿論普通敎育や職業敎育を授ける事に力を盡してをりまして食物など普通の中流家庭のメニューと劣つてはゐません。

なほ、それらの感化、救濟事業よりも、更に根本的に、さういふ罪惡が行はれないやうに社會を改善する事が何よりも重要視されて來てゐる事も見のがすことが出來ません。即ち社會衛生――禁酒運動、花柳病豫防などに力をつくして、惡の原因となるべきものを除く事に努めてゐるのであります。その實行方法なども實に大仕掛で科學的に行はれてをります。これ等を社會的に宣傳し、實行するためにまづ必要な人士を養成する目的で、性の敎育、優生學、花柳病に關する法律等を敎へる講習會をしたり、いろんな種類の小冊子を澤山印刷して廣く一般に撒いたりしてゐます。同じ目的にてせられてゐる兒童保護、母性保護の事業も中々盛であります。子供の局（Children center）に行きますと、極めて廉價にて質のいゝ牛乳を賣つてゐますし、健康診斷所も常設されてあります。母の診察所（Matertng-center）も澤山設けられてありますが、貧しい姙産婦の診察をうけ保護をうけるところであります。

それから出産制限運動に就いても是非一言しなければならず、これは兒童保護、母性保護等の運動も抑々末のことで、もつと根本的な方策を建てるべきであるといふ主張の下に、アメリカにてマーガレット、サンガー女史が始めた運動で、即ち親の手のゆき届きかねるやうな子供は生れて來ないやうにするのであります。これはもう

皇室社會新政（鈴木梅四郎氏著）

痛烈に金權政治を彈劾して大膽なる社會政策を提唱してゐる、氏の主張が常に日本の實際狀態より割出した、實行し得るものである點は、更に傾聽の價値多からしむる所以であらうと思ふ。（東京京橋出雲町、實生活社、定價金一圓五十錢）

山澤榮子畫集（山澤榮子氏著）

氏の油畫、水畫、鉛筆スケッチ、木炭等十五種を寫眞にとつたものである。いづれも大膽に力強く描き出されてあつて年少な著者の將來を囑目させるに充分なものである。

婦人の作家に通有な惡技巧に墮した纎弱な點がなくて、珍しくすぐれた素質の所有者である。（大阪南區新世界、ヤイ文具店定價一圓二十錢）

單に理論だけではなくして、既にその方法までも、科學的に、過らないやうに敎へてをります。

其他セトゥルメント、ウォークや男女の青年會の仕事なども中々侮りがたい實蹟をあげてをります。

最後に、アメリカではなぜさういふ風に社會事業がよく行屆いてゐるだらうか、又日本の婦人には出來ないそれ等の事が、何故アメリカの婦人がよくする事が出來るのだらうかに就いて考へてみなければならないと思ひます。つまりアメリカといふ國の百年前の建國の歷史が既に所謂男女協勞で、萬事にあきたらない事の多かつた祖國を離れて新しい社會を作る事に努力した其の精神と、アメリカの婦人の持つてゐる、あの如何にも無邪氣な長所、この二つの點が、あの國の婦人をして今日われ〱が見る如き澤山の大きな仕事をなすやうに進歩させたのであらうと私は思ひます。又さう理屈など云はずに、いゝと思ふ事ならどん〱實行する點や、何事をするにも各方面が聯合して力を協せてやるといふ點等が、彼等の社會的のいろんな仕事を發展させ、又長續きする仕事にさせてゐるのだと思はれます實際彼國では殆んど全ての會が五十年七十年の歷史を持つてをりますので、何人も、自分達も幸福になりたいが、自分等の子孫をも又幸福にあらせたいとの希望から、全ての人類の幸福、向上をはかりたいといふ熱望が一種の新しい宗敎にさへなつて、決して他より强要せられるのでなく、今や人類にとつて一番必要とせられてゐるものは何であるかと考へられた上で、企て始められるのでありますから萬事に熱誠と研究とが充分に用意せられてあるわけであります。從つて全てが誠意を以て着々と運ばれてをりますから、つねに新しい元氣に充ちみちてゐるわけです。

「治警婦人同盟」

二月二十六日に神田明治會館で婦人と政治問題に就いて講演會をする講師は島田三郎氏、松本君平氏、ガンドレット恒子氏、田中孝子氏 其他である。其時、ある人の發議にて緊急動議が提出されるであらうといふ事だ。これは大事な秘密になつてゐるのだから解らない點の方が多いが少しばかりお耳に容れるならば、何でも山田美津子女史其他の人々が今年は治警問題だけに力を集注して、目的を貫かうといふ考へから、特にこの運動に氣勢を添える爲に、同志を誘ひ合せて治警婦人同盟を作つて大いにあたらうといふのであるらしい。同盟が成立したら早速貴族院議員諸氏に決議文を送り又面談の上通過するやう盡力されん事を冀ふといふ段どりまで決まつてゐるといふのである。

彼女

深尾須磨子

彼女は歌つてゐる。
おお女はただ歌つてゐる。

彼女の窓からは、
今宵も彼女の歌が響く。
彼女は今宵も歌つてゐるのだ。
おお吹きすさむ
木がらしの今宵、
木がらしの音に入り混る
彼女の歌の寂しさ。

彼女は歌つてゐる。
ただ歌つてゐる。
春のいざなひも、
夏のまどはしも、
秋のためいきも、
冬のすすり泣きも、
彼女の心の一はしをだに
ゆるがすことすら出來ない。
彼女は歌つてゐる
ただ歌つてゐる。

彼女のすべては
ただ歌ふことだ。
青葉若葉が
むせるやうな太息(といき)をし、
散歩路(ブウルヴアル)が、
切なげなささやきで
埋まる時も、
ことわりの雪の掛布(かけぬの)が
下界を覆ひつくし、
身のまはりを
癲狂院の一室に、
エジプトの空に浮く
蜃氣樓にすることだけが
ただ吾々を生きものにする時も、

彼女は歌つてゐる。
ただ歌つてゐる。

彼女の窓に、
密つと一つの
手があらはれる。
手には花束を持つてゐる。
生命(いのち)をこめた
戀の花束を持つた
その手が
優しい彼女の窓を
ノックする。
けれど彼女は
あはれなその手に
一瞥をさへ與へない。
彼女は歌つてゐる。
ただ歌つてゐる。

彼女の心が
時々彼女に訊(たづ)ねることがある、

「この歌は一體
誰に捧げるのだ。
おお、このやるせない
情(おも)ひをこめたこの歌を、
この美しい聲に
歌はれるこの歌を、
一體誰に捧げるのだ」と、
だが彼女は即座(たちどころ)に
自分と自分の
心に答へる、
「誰にでもない、私にだ、
おお私にだ、私自身にだ、
それでよい」と、

彼女は今宵も
歌つてゐる。
おお吹きすさむ
木がらしの今宵、
皮を喰み、
肉を喰み、

骨を喰み、
骨の骨までも
喰みつくさうとする
木がらしの音に入り混る
彼女の歌の寂しさ。

彼女の聲は美しい。
彼女の聲は美しいから、
彼女の歌は尙寂しい。
それは咲いても咲いても
みのらぬ、
あだ花の美しさだ、
寂しさだ。
それは神殿にまたたく
ともし灯の美はしさだ、
寂しさだ。
おおその花を、
二人の庭に眞紅の實を結ぶ
いばらの花とするすべはないか。
おおそのともし灯を、
二人してよる卓の上に
ほゝえむともし灯を
するすべはないか。
おおその花を人間の花とし、
そのともし灯を
人間のともし灯とする
すべはないか。

彼女は今宵も歌つてゐる。
おおそれは咒いてゐるやうだ。
怒り叫んでゐるやうだ。
彼女から、
今や逃げやうとする
若さを惜んで、
泣き哀しんでゐるやうだ。
彼女の中に、
今や横柄に座を
占めようとする
闖入者の『老』に對して、
怒り叫んでゐるやうだ。
おお吹きすさむ
木がらしの今宵、
木がらしの音に入り混る
彼女の歌の寂しさ。
彼女は歌つてゐる。
おお彼女はただ歌つてゐる。

治警第五條修正の通過を期し乍ら

▼わが協會の治安警察法第五條修正の運動――即ち婦人の政治的自由を期する運動も今年で足掛四年の戰ひをつゞけてゐるわけである。第四十二議會以來議會開會毎に、今度こそはと大變な意氣込みでとり掛るのであつたが、殊に昨年のやうに衆議院の方は滿場一致で可決し、貴族院の特別委員會も可決し乍ら本會議で否決されてしまふなんて、全く開いた口が塞がらない程あきれたことであつた。氣の早い新聞記者は「日本の新婦人慶びの事」と大きい見出しで、今年は貴衆兩院ともに通過して、日本の婦人の政治的解放の第一歩の日が來ることを確からしく豫言してゐるが果してどうか。（實は去年も新聞紙は通過確實らしく報じて、上程されぬ前から祝つてゐたのである。）

▼この法律改正案が衆議院の會議に上程されたのは二月一日であつた。二日とばかり思つてゐたところが出し拔けに一日になつてゐたものだから當日傍聽をしたいと申込んでをられた方々も可なりあつたのに、急の間にあはなかつたのは遺憾であつた。貴族院上程の時は充分注意して豫告しますから、傍聽に出かけて下さい。

▼今日の議會は、私達三千萬の日本婦人の政治的生活を左右するこの法案を如何に取扱つてゐるか、そして現在の代議士の多くがこの法案に就いて如何思考し如何に取扱つてゐるであらうかといふ點について、私はみなさんの注意を促したいと思ふ。清瀨一郎氏、一宮房次郎氏、野田文一郎氏、松本君平氏等の提出者に依つてどんな風に說明されるかと、其經過に耳を傾けてゐるところへ、佐々木某代議士が起つて「議員が定數に滿ちてゐないから議長に於て相當の處置を執られるやうに」と發言した程、この法案の上程されてゐた時は議場内は寂びれてゐたのであつた。そして議席にあるどの代議士の顔にも倦怠の色が漂つてゐるのを見のがす事が出來なかつた。どの顔もこの顔も、ほんとに詰らない！と云ひ度さうであつた。說明者の言葉に耳を傾けてゐる人は殆ど一人もなさゝうに思はれた……

▼衆議院では委員附托になつたから、多分去年と同じやうに可決されて貴族院の方へ廻るに違ひない。貴族院の方の形勢はどうか。われ〳〵はきつと通過する確信をもつて運動をしてゐる。そして十中の八まで位の確實さはある。

▼二月九日に松本君平氏の御力添で、治警の運動に理解と同情とある代議士諸氏と、新聞記者數氏と、われ〳〵協會の有志十幾名とが中央亭に集つた。去年の失敗を惜しむ人やら、反對派を嘲笑する人やら、今年の策戰を敎へる人やら、將來の婦人の運動に對して希望を述べる人など、さま〴〵の話に花が咲いて中々盛であつた。普通選擧の神樣とあがめられる尾崎行雄氏が、只靜かにうなづき乍らわれ〳〵の話の聽手として終始し去られたのも淋しかつたし島田三郎氏が、四年越しのわれ〳〵のこの運動の經過に就いて何事も知られてなかつた事もうら淋しかつた。松本君平氏は全くわれ〳〵以上の熱心さを以て、むしろわれ〳〵の運動の手緩るい事や淋しい事を數へたてゝ激勵してをられた。

▼芝公園や山王臺あたりに熱狂する群衆を見た眼を直ちにわれ〳〵の上に轉じて、何物かの不滿を訴へる人があるとしたらあゝあれ等何をか云はんと云いたいと思ふ。

▼それにしてもわれ〳〵の運動は全く淋しいな。今年は是非、この治警第五條修正のわれ〳〵の運動を一般婦人界の輿論として、もつと力強い運動にしなければならないと思つて努めたつもりではあつたが（私は從來のわが協會の運動がつねに幹事だけの手と時間とを奪つて、而も一般婦人界の要求にまで波及するに至らずして徒らに過勞と、經濟的の困窮とを結果してゐた事を悲しんでゐた。われ〳〵が何等かの運動をするならば、それは、むしろ一般婦人界の要求を强くし輿論を大にするに役立つものでありたいと思つてゐるのであるから）然し今年もやつぱり淋しい。殊に少しでも政治に關りある仕事や運動となると、殊に反對が多いのだから。然し私は信ずる、われ〳〵の運動は今日の若き人々なら誰でもきつと共鳴してゐて呉れるに違ひないと。何等かの障碍のためにたとへ直接その運動に參加しないまでも、又は明かに贊意を表しないまでもきつと、内心では好意を寄せてゐる人であるに違ひないと。そしてこの確信がわれ〳〵を元氣づけてくれるのだ。そして失意と過勞とからかばつて呉れる。（む）

新婦人協會々報

本部通信

今年は又格別のお寒さですが、みなさんお達者でお出でになりますか。お伺ひ申上げます。平塚さんは栃木縣奈須温泉の方へ轉地してから、近頃は大分氣分も宜しいとかにて何より嬉しく思つてをります、あとに殘つた者はみんな至つて元氣にて、あれやこれやに奔走してをりますからどうぞ御安心下さい。

本部事務所が、狹い點や、割合に高價な點や、便利がよくない點やで、可なり前から移轉したいと思つて探してゐましたが、適當な家が中々見つからないので、愈々別欄記の如くに變更しました。つまり會務一切を大森の事務所阪本眞琴氏の家でやり、雜誌の編輯所を東京の私の家に置く事にしたのです一寸考へるさ不便の樣ですが、第一經費が大分少くなりますし、第二横濱から通勤する會務部の富本さんのためにも都合よく、私自身も大變都合よくなりました。兎に角少しの不便は忍びあつて、今少し基礎をかためるために努力したいさ思ひます。會務の一切は大森の事務所の方に願ひます。編輯上の用事さ東京市内にて急を要する要談は私の宅の方にお願ひいたします。大森の事務所には必ず誰か詰めてをります。兩方共に電話もありますから御利用頂き度うございます。

事業部

對議會の運動を、例年の通り續けましたが、今年は是非貴衆兩院を通過させて、婦人の政治的自由のための記念すべき第一年であらせたいと意氣込んでゐます。今日(一月卅日)の新聞紙でみますと、治警第五條の法律案の方は二月二日に衆議院本會議に上程されるやうです。去年の通りで衆議院の方は大丈夫と思つてゐますが、貴族院の方であんな失敗をとらないやうに、大いにわれ〳〵婦人界の氣勢を揚げやうではありませんか。去年は殆んど議會の終末際に上程されたために、なほ更不利であつたやうでしたから、今年は成だけ早く通過させてしまひたいと思つて、その運動をやつたのでした。この分では貴族院の方へも早く廻るだらうと、喜んでゐます。あさになれば、議員達に飽きが來るし、さきを急ぐために、大事な問題でも、愼重に考察し討論せずに好加減に片付けてしまひ易くなるやうですから。

治警第五條の問題が片づいたら、そのさき〳〵には私共の頭や手を俟つ問題は澤山あるのですから、大いに自重して出直したいものだと思ひます。偏に會員諸兄姉の御奮起あらん事をねがひます。

新社會建設のためには、是非私共若い者同志が男女の性別をとはず協力して鬪ふべきであらうと思ひます。學界にも、政界にも、藝術界にも、道德界にも、將來の新しい社會とは何の關りもなささうに思はれる人々が餘りに多く活躍跳梁してゐはしないでせうか。あゝ、曉はすでにすでに至れりと囁くものあるのに、夜の帳の何さいふ暗く重いことでせう。

研究部

二月一日に室伏高信氏、綿貫哲雄氏、小椋三四子氏の大講演會を開催する豫定で會場迄青年會館と約束をしてゐましたが、室伏氏の御病氣其他の差支ありて延期のやむなきに至りました。三月早々にしたいと思つてをります。

毎月の研究會は、講師の都合や移轉やらで準備が出來ませんでしたが、追つてお知らせいたしますから、どうぞ一人でも餘計に集つて下さるやう皆樣にてお誘合せ下さい。私共は是非研究會をもつと盛大なものとして、その内婦人の自由講座開講の準備にとりかゝりたいと思つてをります。

會計部

會計の御報告が、六ヶ月分たまつて居りますが、今月もまにあひさうにないので來月號まで待つて頂く事にいたします左樣お含み頂き度う存じます。

支部通信

名古屋支部では一月二十八日に、菊地寛氏、芥川龍之介氏、小島政二郎氏を招いて文藝大講演會をしました。大分雪の降つたゝめとだつたやうですから、盛會であるやうに祈つてはゐましたが、よく行つたかしらと氣懸りでもありました。それでも同地方の若い人々の希望するところを一番よく理解しての催しであつたやうですから、きつと大したものであつたに違ひないと、報告を樂しみつゝ待つてゐます。

大阪支部では、高安氏が上京された時本部事務所に見えました、宮本、八田、奥の三人でいろ〳〵話し會ひました。

横濱支部では去る二十日に新年會をする豫定であつたのに、當日になつて幹事積氏の病氣のために延期になりました。

廣島支部の幹事阪口氏が、目下病氣入院中で、其他やむをえぬ四圍の事情もあつてこゝ暫く支部を解散して本部直屬になりたいと申越して來ました。もう少し委しい事情を伺つた上にて、最善の方法をとりたいと思つてをります。(一、卅)

大阪支部獨立に就て

二月九日の二三新聞紙上に新婦人協會大阪支部が本部より獨立して、單獨に運動を始めるといふ記事がのつてゐましたが、本部の方へは何の通知も來なかつたので、從來の幹事原田皐月氏に問合せを出しました。一月下旬に原田氏より、二月一日に大阪支部では臨時總會を開いて高安氏脫退後の善後策を決めるといふお通知が來てゐたからです。原田氏の返事と時を同うして、大阪新婦人協會より謄寫版刷りにて獨立したといふ通知を受とりました。原田氏からの書面は、氏自身さへ何にも知らない間に決まつた事で、一枚の通知に接して驚いてゐると書いてあるのですこれに就いては、本部の立場を明かにする必要がありますし、大阪支部の執られたこの度の行動に就いてももつと事情を公表して申上げなければならないのですが、締切の間にあはないのでやむをえず四月號にゆづります。

新婦人協會々報

本部通信

今年は又格別のお寒さですが、みなさんお達者でお出でになりますか。お伺ひ申上げます。平塚さんは栃木縣奈須温泉の方へ轉地してから、近頃は大分氣分も宜しいとかにて何より嬉しく思つてをります。あとに殘つた者はみんな至つて元氣にて、あれやこれやに奔走してをりますからどうぞ御安心下さい。

本部事務所が、狹い點や、割合に高價な點や、便利がよくない點やで、可なり前から移轉したいと思つて探してゐましたが、適當な家が中々見つからないので、愈々別欄記の如くに變更しました。つまり會務一切を大森の事務所阪本眞琴氏の家でやり、雜誌の編輯所を東京の私の家に置く事にしたのです一寸考へると不便の樣ですが、第一經費が大分少くなりますし、第二横濱から通勤する會務部の富本さんのためにも都合よく、私自身も大變都合よくなりました。兎に角少しの不便は忍びあつて、今少し基礎をかためるために努力したいと思ひます。會務の一切は大森の事務所の方に願ひます。編輯上の用事と東京市内にて急を要する要談は私の宅の方にお願ひいたします。大森の事務所には必ず誰か詰めてをります。兩方共に電話もありますから御利用頂き度うございます。

事業部

對議會の運動を、例年の通り續けましたが、今年は是非貴衆兩院を通過させて、婦人の政治的自由のための記念すべき第一年であらせたいと意氣込んでゐます。今日（一月卅日）の新聞紙でみますと、治警第五條の法律案の方は二月二日に衆議院本會議に上程されるやうです。去年の通りで衆議院の方は大丈夫と思つてゐますが、貴族院の方であんな失敗をとらないやうに、大いにわれ〳〵婦人界の氣勢を揚げやうではありませんか。去年は殆んど議會の終末際に上程されたために、なほ更不利であつたやうでしたから、今年は成だけ早く通過させてしまひたいと思つて、その運動をやつたのでした。この分では貴族院の方へも早く廻るだらうと、喜んでゐます。あとになれば、議員達に飽きが來るし、さきを急ぐために、大事な問題でも、愼重に考察し討論せずに好加減に片付けてしまひ易くなるやうですから。治警第五條の問題が片づいたら、そのさき〳〵には私共の頭や手を俟つ問題は澤山あるのですから、大いに自重して出直したいものだと思ひます。偏に會員諸兄姉の御奮起あらん事をねがひます。

新社會建設のためには、是非私共若い者同志が男女の性別をとはず協力して闘ふべきであらうと思ひます。學界にも、政界にも、藝術界にも、道德界にも、將來の新しい社會とは何の關りもなささうに思はれる人々が餘りに多く活躍跳梁してゐはしないでせうか。あゝ、曉はすでにすでに至れりと囁くものあるのに、夜の帳の何といふ暗く重いことでせう。

研究部

二月一日に室伏高信氏、綿貫哲雄氏、小橋三四子氏の大講演會を開催する豫定で會場迄青年會館と約束をしてゐましたが、室伏氏の御病氣其他の差支ありて延期のやむなきに至りました。三月早々にしたいと思つてをります。

毎月の研究會は、講師の都合や移轉やらで準備が出來ませんでしたが、追つてお知らせいたしますから、どうぞ一人でも餘計に集つて下さるやう皆様にてお誘合せ下さい。私共は是非研究會をもつさ盛大なものさして、その內婦人の自由講座開講の準備にとりかゝりたいと思つてをります。

會計部

會計の御報告が、六ヶ月分たまつて居りますが、今月もまにあひさうにないので來月號まで待つて頂く事にいたします左様お含み頂き度う存じます。

支部通信

名古屋支部では一月二十八日に、菊地寛氏、芥川龍之介氏、小島政二郎氏を招いて文藝大講演會をしました。大分雪の降つたあとだつたやうですから、盛會であるやうに祈つてはゐましたが、よく行つたかしらさ氣懸りでもありました。それでも同地方の若い人々の希望するところを一番よく理解しての催しであつたやうですから、きつと大したものであつたに違ひないさ、報告を樂しみつゝ、待つてゐます。

大阪支部では、高安氏が上京された時本部事務所に見えました、宮本、八田、奥の三人でいろ〳〵話し會ひました。

横濱支部では去る二十日に新年會をする豫定であつたのに、當日になつて幹事積氏の病氣のために延期になりました。

廣島支部の幹事阪口氏が、目下病氣入院中で、其他やむをえぬ四圍の事情もあつてこゝ暫く支部を解散して本部直屬になりたいと申越して來ました。もう少し委しい事情を伺つた上にて、最善の方法をとりたいと思つてをります。（一、卅）

大阪支部獨立に就て

二月九日の二三新聞紙上に新婦人協會大阪支部が本部より獨立して、單獨に運動を始めるといふ記事がのつてゐましたが、本部の方へは何の通知も來なかつたので、從來の幹事原田皐月氏に問合せを出しました。一月下旬に原田氏より、二月一日に大阪支部では臨時總會を開いて高安氏脫退後の善後策を決めるさいふお通知が來てゐたからです。原田氏の返事と時を同うして、大阪新婦人協會より謄寫版刷りにて獨立したといふ通知を受とりました。原田氏からの書面は、氏自身さへ何にも知らない間に決まつた事で、一枚の通知に接して驚いてゐると書いてあるのですこれに就いては、本部の立場を明かにする必要がありますし、大阪支部の執られたこの度の行動に就いてももつさ事情を公表して申上げなければならないのですが、締切の間にあはないのでやむをえず四月號にゆづります。

マルタ

エリザ・オルゼシユコ

宮本貴美子 譯

女の生命に就て、或人は、それは永遠に燃える愛の焔であると云ひ、或人は確言して、女の生命は犧牲であると、又或一部の人は、女の生命は母性であると叫び、又或他の一部の人は、女は娛樂を生命とすと、冷かし半分にいふものもある。と乘ての人々が、異口同音に稱へる所は、女の德は盲目的信賴にあると云ふのである。

かうして女は盲目的に信じ、愛し、身を捧げ、子を育て、自らを樂します……と云へば、畢竟、世間が爲せと要求する總ての事を爲す事になり、又爲しても居るのである。が、世間は女を何故か知らぬが疑の目を以て見て、屢々「お前さん方は女らしくない！」といふ叱責や、忠告の心算で、自分等の意見を發表する。

尤も女の中に於てすら慧眼の人、思慮ある人、不幸な人は、自己をながめ、又は四圍をながめて、「私共は女らしくない！」と繰返して言つてるのである。

凡そ如何なる惡狀態にも、何等かのある救助の方法が必要なのである。その方法は場合に依つて種々異なる事だらうが、一體病といふものは、只處方箋の助けばかりでは、治るものではないにきまつてる

我國の最も尊敬すべき價値ある作家の一人なるザハリヤスィユウイチ氏が、最近氏の小說「アルビナ」

の中に、婦人に大なる愛（勿論、男に對する）が缺けてゐる爲めに、身體的、精神的いづれにも不健康を來たすものであると言つてゐる。

あゝ、そは何たる甚だしい悲しみであり、正しからざる事だらう！

薔薇色なせる神エロスよ、地上に來りて、明かし給へ、我等の全生涯は、汝が名譽の爲め不斷に香を薫ずるのみである事を！

我等女は、生れ落ちてからやうやくにして一人歩きの出來るやうに成り初める頃になると、もはや我々の運命は、男子の中の一人を愛するにありと聞かされる。乙女の時代になると、やがては自分を支配する人に就て、夕べは空に月の光り、星の輝く時、朝は雪白の百合がその香高き花瓣を朝日に向ひ開く時、我等は空想をし、又憧がれるのである。百合の花が日に向つて開くやうに、我等も亦、朝雲の靄の中から、或は月光の海の中から、ある神祕の上に眠つてゐるアドニスの態を以て現れて來るあるものに向つて、突き進む事を許される時の來る迄は、かうして憧がれ、仰ぐのである。……さてその次ぎは如何に成り行くか？　そのアドニスは雲間から降りて來て、憧がれてゐたものは形をつくる。その時彼等は指環を交換し、いよ〳〵結婚する……かういふ場面はとまれ愛に依つてゞある。所が今述べた作家は自分の美しい作品の中で、殆ど例外の無い位に、さういふ場合にも打算を含むと云つてるが、自分にはそれはうけとれぬ事である。打算を含む場合は例外であつて、一般には愛ばかりが美しい場面を飾るのであると云ひ度い。しからばそは如何なる愛であらうか？　それは全く別問題である、又纖細な長々しい議論を要する問題である。うら耻しい顏を白いベールに覆つて、白衣の姿で祭壇に登る時は、必ず恍

惚たるエロスは我々の前を飛び、我等の頭上に、薔薇色の焔をはなつ松明を搖がすのである。かうした場面の次ぎにはどんな事になるだらうか？　勿論我等は更に更に愛し、乙女の時に空想の中に見、乙女の時に指に指環をはめて與れたその人の愛に生きやうとする。然し若し命を捧げて愛するその人に捧げ得ざる時は、如何になり行く事だらう、内に燃ゆる愛は、せめて他の人を愛せんと欲するだらう……かゝる時、かゝに場面に至つて、我等は精根を切らし、むごい肺病などにとりつかれるものもあれば、愛の欲望の爲めに屢々悍婦となるのである。

　而して種々な是等の事情からして、如何なる事が生ずるだらうか？　我等の中の或者は愛の翼に抱かれて、一生を眞直に、有德に、幸福に過し行く。然し他の者は、より多くの寳により多くの者は、血しほ滴る兩の足もて辛い地上を、踏みしめ踏みしめ、歩むでゐるではないか？　パンと安靜と德との爲めに戰ひ、多くの涙を流し、恐しく苦しみ、殘酷にも罪を犯し、益々恥辱の深淵に落ち行き、飢の爲め命をほそげて行くではないか？

　かゝるが故に「愛せよ」と言ふ單なる言葉に依つて成立つてゐる處方箋ばかりでは、凡ての病に効能めのある筈はないのである。さうした處方箋を眞にきゝめあらしめるには、尙一つの成分を加へなければならないのではあるまいか？

　次ぎに揭ぐる女の一生の一部を告げた此物語は或はそれを語る事が出來るかもしれない。

× × × ×

　グラニツナはワルソー市の繁華な通りの一つである。四五年以前の事、美しい晴やかな秋のある日に

通りに面した數多い庭のある一つの庭の奥に如何なる事が行はれてゐたものか、凡ての人はそんな事は夢にも知らず、互に自分達の仕事に、遊びに、心を奪はれて、側目も觸らず、急がはしく歩くものもあれば、車や馬車に乘りすまして過ぐるものもあつた。

その庭といふのは、四方とも高い煉瓦造りの建物に圍まれてゐて、奇麗で廣々としてゐた。一番奥に立つてゐる建物は、一番小さいものだつたが、大きな窓に面して入口も大きく出來てゐた、それに心をつくして入口から段々までも美しく建てられた此住居は、實に住心地のよい、明るい氣樂さを思はせた入口の石段には今青白い顔付の女が、喪服を着けたまゝで立つてゐる。同じ様に青白い喪服の四つ位の女の子が、悲痛と苦惱の姿に包まれてゐる此女の力無げにだらりと下げた兩の手に、あやうくもぶら下がつてゐるのである。

此家の二階の奇麗な廣い梯子段からは、今絶えず、粗末な服に、粗末な埃除け靴を穿いた男達が出たり這入つたりしてゐた。いづれも此家から家具類を運び出す運搬人だつたのだ。此住居は廣くはなかつたが清々した、優美といふほどではないが小ざつぱりとした、一寸とした手入れから至極便利に住まへる家だつた。マホガニー製の寢臺や、長椅子や、深紅な毛のダマスク織の掛ものゝかゝつた腕椅子や、型の好い戸棚や簞笥や、大理石の平板や、五六脚の小卓や、思ひきり大きい鏡が三つばかり、植木といへば夾竹桃の大きな鉢二つと、板の上に三つ四つ落ちきれずに白い花の蕚の下つてゐる蔓陀羅華の鉢が一つあつた。

男達は入口に立つてゐる女の傍を通りながら、いろいろなものを運むでゐた。家の中から運び出した

荷物は、庭の舗石の上に立てかけて、次第よく門の近くにある荷車に積むでは町の彼方に運び去つてゐた。女は身動きもせずに、運びさられる我が家の持荷に目を投げて立ちつくしてゐた。荷物は一つ殘らず女の手から離されて行かなければならなかつたのである。女には今迄なくてはならない家具ばかりであつたのだ。二度とは來ない過去の歷史を自分逹の目の前に示す明かな證據物と別れる樣に、女は自分の持物から分れたのだ。失はれた幸福の默した證人と別れる樣に女は其等の品物と別れたのだ。青白い黑目の子供は今しつかと母親の袖を引張つて、「母ちやん！」と小聲に、「父さんのお机！……」

運搬夫共は、綠の羅紗の被ぶさつた、美しい彫刻を器用に裝飾した大きな書齋机を階段から運び出してきて、大荷車に積み出した。喪服の女は、子供があれよこれよと小さな指先きで示す品物をしみじみといちいち眺め入るのであつた。

「母ちやん！」と一層小聲で、「母ちやんは、父さんのお机の大きな黑い斑點をお存じ？……。あたちはちやんと覺えてゐるの、どうしてあんなものが出來たのかを。あのね、父さんがね、お机の前に座つてゐらしつたときにね、あたちをだつこして下さつたの、さうすると、母ちやんが這入つてらしつて、父さんとこから私を連れて行かうとしたでせう。そしたら父さんがお笑ひになつて、あたちをはなさなかつたの、その時よ、あたちはおいたをしてインキをこぼしたの。父さんは叱りなさらなかつたわ。本當に好い父さんだつたわ、いつでもいつでも、母ちやんや、あたちを、叱かつた事なんかありやしないんですもの……」

とこんな事を子供は母親の膝にしつかりと抱き付いて、喪服の裾に可愛い顏を埋めながら小聲で話し

たのだ。恐しい事だが、子供の心にも無意識の痛みを感じて、過去の記憶がはつきりと甦つたのだらう。今迄乾いてゐた女の目からは二滴の大きな涙が流れ落ちた。子供の笑や、両親の接吻の間に生れたこのインクの斑點が、當り前のつけ値よりは、一二圓といふものが差引かれた。書齋机の後からは美しいピアノが庭の外に現はれて來た。が、喪服の女はそれには、とんと無頓着に構へてゐた。女は藝術家ではないのかしら。樂器には少しの失望も思ひ出もないのだらうか。後から色縫羊毛の覆をつけた小さなマホガニー製の寢臺が運びだされて、荷車に積まれた時には、母親の視線は、子供に注がれた。子供の目からは涙が溢れ出た。

「母ちやん、あたちのお寢臺!!」と云ひながら、「あの人達は、あたちの寢臺を持つて行つちまうぢやありませんか、あらあのきれいな上の布もよ。母ちやんがあたちに下さつたのに。かへして貰つて頂戴よ、母ちやんあたちの寢臺と、上の布をよ……」

母現の答へは唯泣き叫ぶ子供の頭を強く抱き締めるばかりであつたのだ。女の黒い美しい、少し落ち込むだ兩眼は復た乾いてゐた。靑白い纖巧な口はしつかと閉ぢて、落着いてゐた。

其美しい子供の寢臺を最後に、凡ての家具はすつかり積み出されて了まつた。門は一杯に開かれた。家具をを積むだ幾臺かの車は、美しい通の彼方へと進んで行つて了まつたのである。後からは運搬人共が、積み殘りの小荷物を名々の肩にして、立ち去つて行つたのである。今まで物好きに庭の方を眺めてゐた多くの人の頭は、隣の窓の後にすうつと消えてしまつたのである。

外套に身を包むで、帽子を被ぶつたまゝの若い女が、梯子段を下りてきて、喪服の女の前に立つて、

「奥様、もうすつかり運び出しもすみまして、お拂ひするものはするもので、もうちやんとすませました。それで、これが殘りなのでございますよ」と、小さな紙幣の折重ねたのを手渡した。

喪服の女は徐に若い女の方に顏を向けて、

「ありがたうよ、ソフヒヤ、お前の親切がどんなにかうれしいか、本當にありがたう!」と幽かにいへば

「いえ、奥様、奥様こそいつもいつもお親切にして下さいます、かうして四年も此處に置かしていたゞいてゐた間のお親切さ、とても他様では、願へはしないありがたいおいつくしみでございます」

かういひながら、彼女は涙にぬれた眼を、仕事ダコだらけの手で押へた。喪服の女は、その手を取つて、自分の眞白な、柔な掌にしつかと握り締めた。

「あゝ、もうソフヒヤ、お前とは別れるのだね、いよいよ、わかれるのだね」

「え、奥様、せめてお引越し先までなりとおともいたしますよ。さあ、では車を呼ンで參りませう」とて立ち去つた。

こんな會話を殘してからやがて十五分も經つた時は、喪服の女と、子供と、下女とは、ビウナの町のとある家の前で、馬車から下りたのである。

三階建の高い家だが、間口は馬鹿にせゝこましかつた。外からの見付きは、古い感しの惡い家だつた幼い子供は眼を大きく見開いて、壁や窓の邊りをくるくる見廻し初めた。

「母ちやん、今日から此處へゐんねするの?」

「あゝさうですよ」と低い調子で答へながら、入口に立つてゐた門番に、

「あの、二日ばかり前にお願ひして置いたのですけれど、宿の鍵はいたゞけませうかしら？」
「フム、あの屋根裏部屋のだな、きまつてらあ」と答へた門番は「直ぐ明けてやるから、上がつて來るがいゝ」と、つけ加へた。
煉瓦色をした、窓もない壁に二方をとり圍まれて、あとの二方は古い木造りの厩舍と、物置小舍とにとり圍まれた正方形の小さな庭から、今三人は出て來て、眞暗な、汚ならしい梯子段を、下女は子供を腕に抱いて、母親は二人に從つて、カタコトと、上がつて行くのであつた。
門番の開けて呉れた室は、平べつたい、廣い室だつた。天井が低くつて薄暗かつた。それにたつた一つしかない窓は、高すぎて小さい爲めに、薄明しか通さなかつた。此處の天井は上手から下手に向けて斜に走つてゐるので、壁をすつくと押へ着けてるやうだつた。壁からは濕氣臭い、漆喰の匂が鼻をついた。粗末な煉瓦の煖爐の傍の隅に小さな臺所用の煮焚竈が据えてある。向側の壁には戸棚がある、その他には、手摺の無い寢臺や、ビリビリに破れた更紗木綿の被ぶさつた長椅子の小さいのや、眞黑に汚れきつたテーブルや、黄色の藁の網つきの小さい椅子が、破れに破れて、穴だらけに成つて、五六脚あつた
未亡人はしばしは茫然として唯敷居の上に立ちつくしてた。徐に室中を見廻し出して、五六歩したと思ふ間に、長椅子に不圖靠れて了まつた。母親の傍に立つて居た子供も、青ざめて動きもせず、眼ばかりを彼處此處にパチツカセてたゞ恐怖と驚愕の色を見せて居た。下女は大きくはない二つの荷もつを室に運んで貰つて、御者を歸へした。荷物を解いて、あれや、これやと僅ばかりの品物分けをして、順序よく取揃へるのであつた。元からたんともない道具は、間もなく片付けられて了まつた。彼女は外套を

脫いで、帽子を取つて、子供の四五枚の着ものやシャツ靴下を叮嚀に仕舞ひかゝつた。あき箱は室の隅に押しやつた。蒲團二枚と毛布とで、都合よく寢床をしつらへて、窓には窓掛をかけ、戸棚には皿や小鉢や、土瓶や、水鉢や、眞鍮の蠟燭立や、銅製のロシア出來の急須など、とりどりに序でよく取りそろへて手際よく片付けた。やがて煖爐の後から薪を出して、竈に心地よい火を焚付けた。

「さあこれでいゝ」と跪いてゐた彼女は、起ち上がつて、さつきから身動き一つしなかつた未亡人の方に、火を吹いて上氣した眞赤になつた顏を振り向けながら、

「火がやつと起りましたから、お溫かに直きになりますでせう、それにお室も少しは明くなりませう焚付は此煖爐の後にございます。まだあれだけ有りますれば、あと二週間はございますでせう、お召物や、シャツや靴下は此處にかうして仕舞つてございます、お勝手用のお道具やお茶碗やお皿は此戸棚に入れでございますし、蠟燭立も蠟燭もやつぱり此處にございますから……」とかう細々と告げた彼女は、つとめて元氣な調子に歸へらうとしたが、微笑どころか、涙ばかりが浮ぶのであつた。

「ではこれで」と手を組み合せながら「私、もうお暇いたさなければなりませんから……」と幽かにいへば、未亡人は徐に頭をあげて、

「お前もう歸へらなければいけないのだね、あゝ、引き止める譯には行かない事實なのだ」と窓の彼方に視線を投げて、「だがもうすつかり暮れて來たがね、こんな眞暗な通りを一人で歸へれはしまい、

恐い事だらうから」

「いえ、奧樣、そんな事は決してご座いません、奧樣のお爲めなら、どんな暗夜の道だつて何の事と

もおもひません、世界の端の端迄も夜が夜中でもまゐります。たゞ、私、今度のお主人お夫婦があしたの朝早く、ワルソーから出發なさいますので、今日も暮前には歸へつて來るやうにと、申つかつてまゐりましたのでございます。それで今日も何かと御用がありますので、お暇いたさなければならないのでございます……」

と最後の言葉が、彼女の口を閉ざした時、若い女は身を屈めて、未亡人の白い手をとつて、我と我が唇に付けやうとした。途端に未亡人は起ち上がつて、兩の腕を差しのべて、若い女の首をしつかと抱きしめた。二人は共に泣いた。子供までが連れ泣きに泣き出した、そして小さな手を差しのべて、女の外套をもぎとつた。

「行つちやいや、出て行つちやいや、こんなに此處は恐いぢやないか、居ておくれやう、ね、ソフヒヤ！」

若い女は、未亡人の腕や手に接吻した。泣いてる子供を我が胸にしつかと抱いて、

「まゐらねばなりません。歸へらなければなりません、私には可哀相な母親がございます、それにまだ頑是ない妹までがあるのでございます。それでございますから、どういたしましても私が働かなければならないのでございます……」

喪服の未亡人はキット靑ざめたその顏を擧げて、居ずまひを正しく直しながら、

「私も働かなければならないのだよ」と、急に聲に力を込めて、「私にもかうした子供があるのだもの、此の子の爲めに働かなければならないのだから………」

「神樣は決して決してお見棄てには成りません、きつと奧樣をお助け下さいます。奧樣、奧樣、ほん

におなつかしい奥樣！」と下女は叫びながら、更に熱い接吻を泣いてる子の頰に、未亡人の手に、きつく殘して、後をも向かずに一目散に室を出て行つて了まつたのである。

下女の出て行つた後の室には大きな沈默が續いた。唯竈の火のパチ／＼する音と、町から起る雜音の響が幽かに此屋根裏の沈默を破ぶるのみであつたのだ。未亡人は長椅子に腰を下ろした。遂さつきまで泣き通して居た子供は、今疲れた身を母親の胸に取り縋つて、靜な眠りに入つたのである。未亡人は掌に額を埋めて、膝に抱いた子の小さな腰の邊りを撫で廻しながら燃えてる火の震へてる焰をぢつとゝ、目ばたきもせずに見詰めて居た。

世にも稀なる忠實な淸き犧牲者である若き下女が、未亡人の下を離れ去つたといふことは、實に、未亡人に取つては、いつくしみ深い人との最後の別れであつたのだ。未亡人の爲めに日每夜每、事缺かさなかつた凡ての物、凡ての情けが、過去のものとなつて了まつた時も、彼女ばかりは、若き未亡人の下に侍つて、唯一つの杖とも柱とも成つて、ありし日の悲しい證人とは成つて居たのである。さるに今、全く未亡人は唯獨り、數奇な運命に投げ出されて、孤獨の不幸を味ひながら、我が手我頭を賴りに生きなければ成ら無くなつたのである。唯彼女が膝下には、彼女の胸に息をとり、彼女の口に愛を求め、彼女の手に飢をいやす頑是ない幼子があるばかり。過し日、彼女が愛する夫の手に依つて與へられた我が家は、今彼女からもぎとられて、新らしき住み主のものとはなつたのである。辛き世の渦卷には洩れて絕へざる愛に我妻を息はせた人、其情け厚い人は、束の間に墓の暗路に消えて歸へら無いのである。凡てのものは去つた。愛も、富も、生の悅びも、靜けさも。かくして夢の如うに過ぎ逝いた思ひ出に

は、唯々いやし難ない心の痛みと、力無い青ざめた我が幼子とばかりなのである。

母の膝に眠りをとつてゐた子は、今眼をふとさまして、小さい手を母が首に取り卷きながら、未亡人の顏に小さい口をきつく押し當てゝ、

「お母ちやん、何んかおうまを頂戴よ！」と、靜かに云ふのであつた。子の願ひを滿たす爲めには、今母の手元には何一つだも用意が無かつたのだ。俄かに母の心には、言ひ難い悲味と、恐れとがもつれはじまつたのである。

未亡人はポケツトに手を差し入れて、巾着を取り出した。小さい紙幣が四五枚。だがそれが、彼女と子供との所有金の全部なのだ。彼女は肩掛を引きかけて、大人なしく待つて居るやうに云ひながら、一人で室を出て行つた。

梯子段の中途で彼子は門番に出會つた。門番は下の室の宿人の所へ、薪を運んで行く所だつた。

「もし〳〵、子供がお菓子が欲しいと云ふのですが、何處か此近所で牛乳と菓子パンとを買つて來て下さいませんか？」と、物柔かに賴むに、門番は足をも止めず、女の言葉を耳にするや、ふいと、頭を背けて、隱し切れない不滿聲で、

「へえ！何奴が乳だの菓子だのつて買ひに出かける暇なんか持つてるかい！　俺だつてな、そんな眞似をしに此處ら邊りに居てやるんぢやないんだからね、フム宿人の喰物を買ひ運びなんかしてやれるかい、誰れがくそ！」とこんな捨詞を殘して、壁の曲り陰に姿を消して行つて了まつたのだ。未亡人は又段を下り續けながら、「あゝ、彼男は一寸ばかりの親切をすらしてくれやうとは思はないのかしら、

いえ、私が貧乏だから馬鹿にして相手には成つてくれないのだ、お駄賃を貰へる他の人には、あんなにして薪まで持ち運むでやるものを……」としみ〲考へに沈みながら庭まで降りて來て邊りを見廻はしてゐると、

「へえ、何を其處らでぐづ〲してるのさ？」と女の嗄聲が氣持惡く響いた。

未亡人は入口の大門の傍の小さい低い門の前に立つてゐる女をちらと見た。女の顔付は黄昏の暗がりには見分け難かつた。けれど、短い着物を着て、大きな麻の頭巾を被つて、肩に一寸布端を横丁に引掛けて、がむしやらに喋べる聲色や話振りで下等な女であると察せられた。未亡人は門番の女房だと承知して、

「もし〲一寸お願ひいたしますが、何誰か此處には、乳とお菓子を買つて來て下さるお人は無いものでせうかしら！」とたづねるに、女房は、東間を考へて、

「一體お前さんは何階に居るのかい？　まだ初見えだね」とつきかへす。

「ハイ、あの今日、たつたさつき、屋根裏に越して參りましたばかりで……」

「あゝ例の屋根裏住みかい！　そのお身分で、物を買へのと頼まれたことかい、考へるがいゝよ、お前さん手前で用なら足して來たらよからうじやないか？」

「お駄賃は拂ひますけれど……」とかすかな聲で頼むで見たが、女房は聞いて聞かない振りをして殊更に肩掛を體裁作くつて、小さい門の彼方へとかくれて行つて了まつたのである。

彼女は身動きもせずに、力無い兩の手をだらりと落して、端息に無益の思案をしながら、四五分も立

ち竦くしてゐたが、やがて、頭を上げて、大門の方向につか〱と進んで行つて、町に出る小さい潜戸を開けたのである。（未完）

（これはポーランドの婦人作家エリザ、オルセシュコが自由語で書かれた長編です。それをザメンホフ博士が、エスペラント語に譯されたものを、未熟な私が拙譯をしたのです。）

編輯だより

あはたゞしく、埃にまみれた都大路を吹く風にも、春のいぶきの感ぜられて、若草深い田舍住ひの方々の一入なつかしく憶ひ出られる頃となりました。あれやこれやに目のまはるやうな忙しい思ひの私たちは、此頃急に殖えて目につく、五人連七人連の田舍の人々を見て平和博覽會も始まつたらしいさうなづく次第でございます。然し四月に入れば又大分ひまになれる筈ですから、御上京なさるお方は是非事務所にお遊びにお出かけ下さいまし。ゆつくりさ、いろんな國のお話など伺ひ乍ら私たちの仕事のつちさを嬉しさ等も聞いて頂き度いさ思ひます。

この號は始め二月號として發行する筈であつたのですが、三月號にさへ間にあはなくなつてしまいました。やむを得ず四月號として出す事にしました。編輯の桐本さんが伊豆の方へ轉地療養にゆかれた上に、他の者はみんな治警運動で寸暇もない有樣でしたし――目下專任で協會の運動に掛り切りになつてゐる人がないのです――その上印刷やの方に引續き取込みがあつて益々おくれてしまつたのでした。五月號以降は必ずおくれないやうに努めますから惡しからず願ひます暖くなつて、病氣引籠り中であつた平塚さん、桐本さん等が揃つたら私達の仕事は又新しい元氣に充たされて發展するのだからと、みんなが無理な忙しさにも耐えてらゐます。(む)

移轉

女性同盟編輯所
東京市外西巣鴨町宮仲一九九六
奥方

事務所
東京府下大井町阪下二七二三

定價表

一部 金三十錢(郵税五厘)
半ヶ年 金一圓七十錢(郵税共)
一ヶ年 金三圓三十錢(郵税共)

廣告料

特等 一頁 四十圓
一等 一頁 三十圓
二等 一頁 二十五圓
半頁 十五圓
二回以上制引あり

注意

▼御注文は總て前金で願ひます。
▼御送金は振替に御拂込下さい。
▼郵劵代用の際は一割増の事。(五厘切手にて)
▼誌代の領收書は雜誌發送を以てかへます。
御入用の方は端書封入下さい。

大正十一年三月廿五日納本
大正十一年四月一日發行(第十三號)
編輯兼發行印刷人 奥むめお
東京市外西巣鴨町宮仲一九九六
發行所 新婦人協會
電話小石川 末定
振替東京五〇九〇〇番

當分の内絶對に書店に出さず。直接に御申込みを願ひます。



大正十一年四月廿日印刷納本
大正十一年四月一日發行
女性同盟一月號
（大正九年十月一日第三種郵便物認可）

定價（一部）參拾錢（郵稅五厘）
發行所 東京市麴町區內幸町一ノ六 振替東京[illegible]〇九〇〇 新婦人協會